

## IV 雑草防除ガイド

### 1 除草剤使用上の基本事項

除草剤は雑草を枯殺、あるいは発生を抑制することが目的であり、作物と雑草との選択性の高い除草剤や作物に薬害発生危険性が低い剤であっても、作物の生育や生理状態などによって何らかの影響をおよぼすものである。そのため、除草剤の使用に当たっては、除草剤の性質、土壌条件、作物の生育状況等に十分注意するとともに次の事項に留意する。

- (1) 除草剤の特性に合わせて適期散布を励行するとともに、薬剤ごとの使用時期や回数、薬量などの使用基準を厳守する。
- (2) 除草剤は、適用作物、適用地帯、適用作型以外には使用しない。
- (3) 薬剤は、均一に散布し、むらまき、重複散布にならないよう注意する。
- (4) 薬剤散布は、特に散布法や風向等に十分注意して薬剤が近接ほ場や用排水路へ飛散、流入しないようにする。
- (5) 除草剤散布後の機械機具は、直ちに水洗いをする。特にホルモン系除草剤については、専用の機具を使用するか、使用後は洗剤で洗ってから、さらに数回水洗いをする。
- (6) その他、作物別の除草剤使用上の留意事項は、それぞれの項目を参照する。
- (7) 昨年度の本ガイドから変更のあった事項については、下線で示した。(誤字などの簡易な修正を除く)

### 2 水 稲

#### (1) 除草剤使用上の留意事項

##### ア 共通事項

- (ア) 水稲用除草剤は、剤型が多様化し製品数が多いことから、製品ラベルを熟読し対象草種、使用時期、投下量などを散布前に必ず確認する。

##### イ 水管理

- (ア) 水稲用除草剤は、一部の直播用剤や茎葉処理剤を除き湛水条件で使用することから水管理が最も重要である。
- (イ) 事前に落水口や漏水箇所の点検・補修を行い、散布後の水田水をほ場外へ流出させないようにするとともに、漏水田では除草剤を使用しない。
- (ウ) 散布時は完全に止め水とし、散布後7日間程度は田面を露出させないようそのまま湛水を保ち、落水やかけ流しをしない。また、やむを得ず止め水期間中に入水する場合は静かに行う。
- (エ) 粒剤では水深3～5cmで散布すること。フロアブル剤、ジャンボ剤その他少量拡散型粒剤等は5～6cmとし、拡散を阻害する藻類・表層剥離が少ないことを確認する。
- (オ) 散布後は、田面が露出したり土壌表面の薬剤処理層を攪拌すると除草効果が低下するため、効果が持続している間は落水や中干し、中耕等は行わない。
- (カ) 落水散布又は極浅水にして散布する剤の場合は、雑草茎葉部が水面上に十分露出していることを確認する。散布後は少なくとも7日間はそのままの状態とし入水や掛け流しはしない。

##### ウ 使用時期

- (ア) ガイドで示す水稲の葉令とは平均葉令、ノビエの葉令とは最高葉令(最も生育の進んでいる個体の葉令)であり、散布適期を逸さないよう注意する。
- (イ) 代かきから移植までの日数はおよそ5日以内として処理時期が設定されているので、代かきから移植までの日数が長くなる時は、雑草特にノビエの生育(葉令)に注意する。
- (ウ) 移植前処理は、移植時の落水や田植機等による処理層の破壊などによって除草効果変動しやすいこと、除草剤成分の河川への流出による環境への影響の恐れがあることを考慮し、平成11年に本防除ガイドから削除した。

##### エ 散布方法

- (ア) 無人ヘリコプター及び無人マルチローターでは、薬剤がほ場外に落下しないように風向に注意する。
- (イ) ラジコンボートでは、処理むらが生じないように、運用は慎重に行う。

(ウ) 水口処理では、均平度が高く水持ちの良い水田で、給水能力として5～6 cmの湛水が6時間以内に可能な水田に限る。処理はヒタヒタ水もしくは浅水条件(1～2 cm)で薬剤を投入し、流入水とともに水田全面に拡散させる。田面水が通常の湛水状態(湛水深5 cm前後)に達した後は必ず水を止め、水尻からのオーバーフローに注意する。また、水口が2箇所以上の場合は、薬剤を均等に分け、それぞれの水口から同時又は連続して処理する。

#### オ 薬害

- (ア) 軟弱・徒長苗の使用や極端な浅植えて根が露出する水田では、薬害の発生する恐れがあるので使用しない。
- (イ) 土壌還元が著しい水田において、シメトリンなどトリアジン系除草剤を使用すると水稻の生育に障害を与えることがあるので注意する。
- (ウ) MCPBなどフェノキシ系除草剤は、低温条件で使用すると水稻に対して筒状葉の発生や生育抑制等の薬害を生じやすいので、水稻の葉令が5.5葉以上、平均気温15.5℃以上の条件で使用する。
- (エ) 魚毒性分類に代わる新たな評価基準が導入されており、すべての薬剤は新たな評価手法に切り替わっているため、FAMICのホームページ等で確認し、魚介類に被害をおよぼす恐れのある薬剤については、河川、養魚池等に絶対流出させることのないよう特に留意して処置する。

#### カ 抵抗性雑草

- (ア) 同じ系統の除草剤を毎年使用すると抵抗性を持ち効果が著しく劣る雑草が発生することがあることから連用は避ける。もし、一部の雑草種だけが繁茂した場合は関係機関に相談するとともに、次年度同じ剤は使用しない。
- (イ) SU系除草剤抵抗性イヌホタルイの発生は、感受性イヌホタルイより早いことが多いので、観察時期を早め、処理時期が遅れないよう注意する。
- (ウ) SU系除草剤抵抗性イヌホタルイに対しては、種子の生存率を考慮し、当面、有効除草剤を継続して3年以上使用する。
- (エ) 道内においても平成21年にSU剤抵抗性オモダカが存在が確認されたことから、オモダカの残草が増えた場合には、SU剤以外の有効な除草剤の使用を検討する。なお、オモダカは発生期間が長く、遅く発生する固体には効果が劣るので、必要に応じて有効な中期剤などとの組み合わせで使用する。

#### キ 表記

- (ア) 薬剤は、原則として商品名のアイウエオの順番で整理した。
- (イ) SU系除草剤抵抗性イヌホタルイに対して効果が確認された除草剤については、ホタルイ欄の下段に◎で記載し、殺草限界葉令が通常のイヌホタルイ以下の場合のみ葉令を記載した。
- (ウ) ミズアオイとアゼナでは、SU系除草剤抵抗性を含む個体に対し効果が確認された除草剤について◎で記載した。なお、アゼナの殺草限界は主にノビエの葉令で示した。





(3) - 2 販売数量が3年連続して500haに満たない剤(掲載から5年以上経過)

番号	商品名	指導参考年	試験コード	防除ガイド 初掲載年	新規 ・改訂
1	アークエース粒剤	H13	KH-183	H14	
2	クリアホープフロアブル	H21	AKD-7155・F	H25	
3	シーゼットフロアブル	H9	TSM-612・F	H9	
4	シヨキニーフロアブル	H9	KUH-958・F	H9	
5	シヨッカーフロアブル	H10	NSK-859・F	H10	
6	シノウチEW	H17	KPP-2008EW	H23	
7	シグ乳剤	H6	TCG-128乳	H6	
8	スピンフロアブル	H16	KPP-2011・F	H17	
9	農将軍フロアブル	H10	YH-562・F	H10	
10	ハテホープ1キロ粒剤	H8	KUH-942	H8	
11	ハクサーフロアブル	H9	KPP-314L・F	H9	
12	マーゼット1キロ粒剤	H13	ブタロール	H15	
13	ワンバーストフロアブル	H4	SL-970・F	H6	

(2) 移植水稲(苗代)、(3) 移植水稲(本田・移植後土壌処理)



(4) - 2 販売数量が3年連続して500haに満たない剤(掲載から5年以上経過)

番号	商品名	指導参考年	試験コード	防除ガイド 初掲載年	新規 ・改訂
1	ワンバーストフロアブル	H4	SL-970・F	H6	
2	シーゼットフロアブル	H3	TSM-612・F	H4	
3	ヨシキタフロアブル	H18	SST-403・F	H20	
4	ナイスショットシヤンホ	H10	SW-965・J	H12	
5	イノバDX1キロ粒剤75	H15	NBA-131a	H16	
6	サスケラジカルシヤンホ	H17	BAG-032・J	H19	
7	ネヒロスラジカルシヤンホ	H14	AC-014R・J	H15	
8	サンジヤインフロアブル	H18	SB-564	H23	
9	マキシ-MX1キロ粒剤	H20	SYJ-167	H23	
10	カオノンMX1キロ粒剤	H22	SYJ-219	H24	
11	半蔵1キロ粒剤	H22	BAH-041	H24	
12	ユートピア1キロ粒剤	H10	AC-014A	H12	

(4) 移植水稲(初期一発剤)













(5) ー2 販売数量が3年連続して500haに満たない剤(掲載から5年以上経過)

(5) 移植水稲(初中期一発剤)

番号	商品名	指導参考年	試験コード	防除ガイド 初掲載年	新規・ 改訂
1	イッテツプロアフル	H14	TH-001・F	H15	
2	忍プロアフル	H22	TH-601・F	H23	
3	ゼータワンプロアフル	H20	TH-547(Z)・F	H24	
4	トニチS1キロ粒剤	H17	SST-402	H19	
5	ダイナマンプロアフル	H14	NH-803・F	H15	
6	メイトンプロアフル	H18	NH-403・F	H20	
7	エーワンプロアフル	H19	BCH-051・F	H24	
8	キチットプロアフル	H18	TH-224・F	H19	
9	サワレットRXプロアフル	H14	MY-100TSC・F	H15	
10	ホクト1キロ粒剤	H10	NC-311DCD	H11	
11	ムソウ1キロ粒剤	H20	NH-061	H23	
12	イノーハDXアツプロアフル	H17	SW-032・F	H19	
13	ビックシュアエース1キロ粒剤	H18	BCH-044	H19	
14	フルセータプロアフル	H22	S-9421・F	H25	
15	イノーハトリオプロアフル	H17	SW-032・F	H27	
16	イノーハトリオ1キロ粒剤75	H16	SW-041・H	H27	
17	キマリプロアフル	H26	HOK-1101・F	H28	
18	アビロクロウMX1キロ粒剤	H24	SYJ-223	H26	
19	フルハワーMX1キロ粒 剤	H26	SL-1001	H27	
20	カイリキプロアフル	R2	HOK-1702FL	R3	



(6) 移植水箱(中期剤)

番 号	商品名 [試験番号]	有効成分名 及び含有量(%)	使用時期	使用方法 及び10a当 たり使用量	土 壤 条 件	対象雑草と処理限界											毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使用上の注意 事項と薬害症状	関連指導対象剤 (含有の有効成分が同一で 剤型が異なる商品(詳しくは 掲載農薬一覧表の見方と 留意事項を参照))	新 規 ・ 改 訂													
						ノ ビ エ	一 年 生 雑 草	マ ツ バ イ	ホ タ ル イ	へ ら オ モ タ カ	ウ リ カ ワ	ヒ ル ム シ ロ	グ エ ソ ノ サ ヤ ヌ カ	セ リ	オ モ タ カ	ミ ズ ア オ イ						ア ゼ ナ	コ ウ キ ヤ ガ ラ	薬 ・ 表 層 剥 離										
7	7スガチエース1キ0粒剤 [SL-0401]	フルネストロロン 0.33%	+30~+40(7E I5L) (但し、収穫45日前まで)	1kg	砂壤土 ~ 埴土	ノ ビ エ	○ 5L (砂 4L)	一 年 生 雑 草		マ ツ バ イ		ホ タ ル イ		へ ら オ モ タ カ		ウ リ カ ワ	○ 4L	ヒ ル ム シ ロ	○ 期	グ エ ソ ノ サ ヤ ヌ カ		セ リ		オ モ タ カ		ミ ズ ア オ イ		ア ゼ ナ		コ ウ キ ヤ ガ ラ	○ 草 丈 15 cm	薬 ・ 表 層 剥 離		
8	ツイゲキキ0粒剤 [KUH-163]	シメトリン 3.0% ピリスルファン 0.75% フェンキソリオン 2.5%	+20~+40(7E I4L) (但し、収穫60日前まで)	1kg	砂壤土 ~ 埴土	ノ ビ エ	○ 4L	一 年 生 雑 草	○	マ ツ バ イ	○	ホ タ ル イ	○ 4L	へ ら オ モ タ カ	○	ウ リ カ ワ	○ 4L	ヒ ル ム シ ロ	○ 期	グ エ ソ ノ サ ヤ ヌ カ	○ 4L	セ リ	○ 期	オ モ タ カ	○ 矢 尻 葉 4L	ミ ズ ア オ イ	◎ 心 形 葉 1L	ア ゼ ナ		コ ウ キ ヤ ガ ラ		薬 ・ 表 層 剥 離		
9	トメノSMF液剤 [KPP-131液]	ベンゾジメトリン塩 18.3% メタホフ 1.2%	+15~+40(7E I5L) (ただし、収穫50日前ま で)	1000ml (水量100L)	砂壤土 ~ 埴土	ノ ビ エ	○ 5L	一 年 生 雑 草	○	マ ツ バ イ	○	ホ タ ル イ	○ 5L	へ ら オ モ タ カ	○	ウ リ カ ワ	○ 3L	ヒ ル ム シ ロ	○	グ エ ソ ノ サ ヤ ヌ カ	○ 2L	セ リ		オ モ タ カ		ミ ズ ア オ イ	◎ 4L	ア ゼ ナ		コ ウ キ ヤ ガ ラ		薬 ・ 表 層 剥 離		
10	ハイスコープ1キ0粒剤 /ルチクロス1キ0粒剤 [MIH-164]	シクロリレート 2.0% テアリトリオン 3.0%	+14~+60 (砂壤土は、+40まで) (但し、収穫45日前まで)	1kg	砂壤土 ~ 埴土	ノ ビ エ	○	一 年 生 雑 草	○	マ ツ バ イ	○	ホ タ ル イ	○ 草丈 15cm 以下	へ ら オ モ タ カ	○ 草丈 15cm 以下	ウ リ カ ワ	○ 4L	ヒ ル ム シ ロ	○ 期	グ エ ソ ノ サ ヤ ヌ カ	○ 5L	セ リ		オ モ タ カ	○ 矢 尻 葉 5L	ミ ズ ア オ イ	◎ 心 形 葉 1L	ア ゼ ナ		コ ウ キ ヤ ガ ラ		薬 ・ 表 層 剥 離		
11	レアラスタ1キ0粒剤 [NC-640]	シメトリン 1.0% タイロド 10.0% テアリトリオン 3.0% メタリスルロン 1.2%	+20~+30(7E I4L) (但し、収穫60日前まで)	1kg	砂壤土 ~ 埴土	ノ ビ エ	○ 4L	一 年 生 雑 草	○	マ ツ バ イ	○	ホ タ ル イ	○ 3L	へ ら オ モ タ カ	○	ウ リ カ ワ	○ 3L	ヒ ル ム シ ロ	○ 期	グ エ ソ ノ サ ヤ ヌ カ		セ リ	○ 期	オ モ タ カ	○ 矢 尻 葉 3L	ミ ズ ア オ イ	◎ 2L	ア ゼ ナ		コ ウ キ ヤ ガ ラ		薬 ・ 表 層 剥 離		
12	レアラスタンボ [NC-640]・ヤンボ	シメトリン 2.5% タイロド 25.0% テアリトリオン 7.5% メタリスルロン 3.0%	+20~+30(7E I4L) (但し、収穫60日前まで)	40g×10コ	砂壤土 ~ 埴土	ノ ビ エ	○ 4L	一 年 生 雑 草	○	マ ツ バ イ	○	ホ タ ル イ	○ 3L	へ ら オ モ タ カ	○	ウ リ カ ワ	○ 3L	ヒ ル ム シ ロ	○ 期	グ エ ソ ノ サ ヤ ヌ カ		セ リ	○ 期	オ モ タ カ		ミ ズ ア オ イ	◎ 2L	ア ゼ ナ		コ ウ キ ヤ ガ ラ		薬 ・ 表 層 剥 離		
13	レアラスタ1キ0粒剤 [NC-657-1kg]	テアリトリオン 2.5% シクロリレート 1.5% メタリスルロン 1.2%	+20~+35(7E I4L) (但し、収穫60日前まで)	1kg	壤土 ~ 埴土	ノ ビ エ	○ 4L	一 年 生 雑 草	○	マ ツ バ イ	○	ホ タ ル イ	○ 4L	へ ら オ モ タ カ	○	ウ リ カ ワ	○ 4L	ヒ ル ム シ ロ	○ 期	グ エ ソ ノ サ ヤ ヌ カ		セ リ	○ 期	オ モ タ カ		ミ ズ ア オ イ	◎ 舟 形 3L	ア ゼ ナ		コ ウ キ ヤ ガ ラ		薬 ・ 表 層 剥 離		
14	ロイデト粒剤 [DAH-1502 EC]	7フロピラキキエノベンゾ 2.7%	+20~+40(7E I5L) (但し、収穫45日前まで)	200ml	壤土 ~ 埴土	ノ ビ エ	○ 5L	一 年 生 雑 草	○	マ ツ バ イ	○	ホ タ ル イ		へ ら オ モ タ カ		ウ リ カ ワ	○ 4L	ヒ ル ム シ ロ	○ 期	グ エ ソ ノ サ ヤ ヌ カ	○ 3L	セ リ	○ 期	オ モ タ カ		ミ ズ ア オ イ	◎ 4L	ア ゼ ナ		コ ウ キ ヤ ガ ラ		薬 ・ 表 層 剥 離		

(6) - 2 販売数量が3年連続して500haに満たない剤(掲載から5年以上経過)

番号	商品名	指導参考年	試験コード	防除ガイド 初掲載年	新規 ・ 改訂
1	オゾキMX1キロ粒剤	H24	MIH-104	H25	
2	ザ・ヘックスDX1キロ粒剤	H12	SW-973	H13	
3	ザ・ヘックスSM1キロ粒剤	H10	NS-177	H10	
4	セカンドショットSジャンボMX	H30	MIH-144ジャンボ	H31	
5	ナイストル1キロ粒剤	H20	SL-0604	H22	
6	ハイカット1キロ粒剤	H18	NC-612	H20	
7	ヒエクリーン1キロ粒剤	H12	KUH-983	H14	
8	ワンステージ1キロ粒剤	H12	KUH-983	H14	

(6) 移植水種(中期剤)



使用上の注意事項

注1:オモダカの発生期間は長い場合、発生が遅いため、効果を示さないことがあるので、必要に応じて有効な移植後土壌処理剤又は一発剤との組み合わせで使用する。

(7) 移植水稲(後期)

番 号	商品名 [試験番号]	有効成分名 及び含有量 (%)	使用時期	使用方法 及び10a当 たり使用量	土 壌 条 件	対象雑草と処理限界											本 剤 の 使 用 回 数	使用上の注意事項 と薬害症状 □薬害症状	関連指導対象剤 (含有の有効成分が同一 で剤型が異なる商品(詳しく は掲載農薬一覽表の見 方と留意事項を参照))	新 規 ・ 改 訂															
						ノ ビ エ	一 年 生 雑 草	マ ツ バ イ	ホ タ ル イ	ク ラ オ モ ダ カ	ウ リ カ ワ	ヒ ル ム シ ロ	エ ゾ ノ サ ヤ ス カ グ サ	セ リ	オ モ ダ カ	ミ ズ ア オ イ					ア ゼ ナ	コ ウ キ ヤ ガ ラ	藻・表層剥離												
9	ワイトアタカSC [DASH-001SC]	ベキスラム 3.0%	+25~+40 (イネ6L以降、/F15Lま で) (収穫30日前まで)	100m(散布液量: 100L)	砂壤土 ~ 壤土	ノ ビ エ	○ 5L	一 年 生 雑 草	○	マ ツ バ イ	○	ホ タ ル イ	○ 花 茎 抽 出 始	ク ラ オ モ ダ カ	○ 5L	ウ リ カ ワ	○ 4L	ヒ ル ム シ ロ	○ 期	エ ゾ ノ サ ヤ ス カ グ サ	○ 期	オ モ ダ カ	○ 草 丈 3 0 cm 以 下	ミ ズ ア オ イ	◎ 3 5 4 L	ア ゼ ナ	◎ 5L	コ ウ キ ヤ ガ ラ		藻・表層剥離		2	落水散布またはごく浅く漏水して散布 ・散布後少なくとも2日間(浅水処理は3日 間)は入水を選り止水しておく ・農着剤を加用すると薬害の恐れがあるので で加用しない ・重複散布は薬害の恐れがあるので避ける ・注1		
10	クラクラアタカ粒 剤/ノエツワ-4Z1キ 粒剤 [MIH-201-1kg粒]	シクロピロキシメト 1.5% エチピルピオニ 3.0% プロピルピロキシメト 0.9% シメトリン 1.5%	+30~+40 (/F13.5Lまで)	1kg	壤土 ~ 壤土	ノ ビ エ	◎ 3.5 L	一 年 生 雑 草	○	マ ツ バ イ	○	ホ タ ル イ	○ 3L	ク ラ オ モ ダ カ	○ 3L	ウ リ カ ワ	○ 3L	ヒ ル ム シ ロ	○ 期	エ ゾ ノ サ ヤ ス カ グ サ	○ 期	オ モ ダ カ	○ 草 丈 3 0 cm 以 下	ミ ズ ア オ イ	◎ 舟 形 3L	ア ゼ ナ		コ ウ キ ヤ ガ ラ		藻・表層剥離		1	体系処理の後処理剤として用いる。		新





(8) 直播水稻

番 号	商 品 名 〔試験番号〕	有 効 成 分 名 及 び 含 有 量 (%)	使 用 時 期	使 用 方 法 及 び 10a 当 た り 使 用 量	土 壤 条 件	対 象 雑 草 と 処 理 限 界											毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項 と 薬 害 症 状	関 連 指 導 対 象 剤 (含有の有効成分が同一 で剤型が異なる商品(詳 しくは掲載農薬一覧表の 見方と留意事項を参照))	新 規 ・ 改 訂
						ノ ビ エ	一 年 生 雑 草	マ ツ バ イ	ホ タ ル イ	へ ら オ モ ダ カ	ウ リ カ ワ	ヒ ル ム シ ロ	エ ソ ノ サ ヤ ヌ カ ゲ サ	セ リ	オ モ ダ カ	ミ ス ア オ イ					
9	シヤスタキロアフル 〔MIH-162707アフル〕	シロピリエレート 5.5% トリアアモン 0.9% ピラゾレート 11.0%	イネ1L～/ト/E2L	500ml	壤土 ～ 埴土	○ 3L	○ ○	○ 2L	○ 2L	○ 2L	○ 始	○ 期						○シヤスタキロアフル ○シヤスタ400FG			
10	シヤスタキロアフル 〔MIH-161-1kg粒〕	シロピリエレート 3.0% トリアアモン 0.5% ピラゾレート 6.0%	播種時(±0)	1kg	壤土 ～ 埴土	○ 前	○ ○	○ 前	○ 前	○ 前	○ 前	○ 前							・散布後、速やかに極浅水で湛水し、自然減水により落水出芽を行う ・出芽期までの落水が不十分な場合に薬害を生じることがある		
11	ヒエカリーン1キロ粒剤 〔KUH-983〕	ピリミハツカメチル 1.2%	+0(播種同時)	0.5kg	壤土 ～ 埴土	○ 前															
12	ワスタレーン1キロ粒剤 〔KUH-983〕																				
13	フルハワー-MX1キロ粒剤 〔SL-1001〕	ピラロニル 2.0% フルセリスルフロニド 0.2% メトロン 0.9%	イネ1L～/ト/E2L (収穫60日前まで)	1kg	壤土 ～ 埴土	○ 3L	○ ○	○ 2L	○ 2L	○ 2L	○ 2L	○ 期	○ 始	○ 始	◎ 1L	◎ 3L		○フルハワー-MX1キロ粒剤			
14	マスタオアフル 〔S-9203〕	イマズスルフロニド 1.7% ピリミハツカメチル 1.2% フェンキソトロン 5.8%	+稲1L～/ト/E2.5L (収穫90日前まで)	500ml	壤土 ～ 埴土	○ 3L	○ ○	○ 1L	○ 始	○ 始	○ 期		○ 期								訂
15	ラオアフル 〔KUH-191707アフル〕	ダイムロニル 11.3% フェキサスルフロニド 2.8% フェンキソトロン 4.7% ベンズルフロニド 1.4%	稲1L～/ト/E2L (収穫90日前まで)	500ml	壤土 ～ 埴土	○ 2L	○ ○	○ 1L	○ 1L						◎ 1L			○ラオアフル1kg粒剤 ○ラオアフル ○ラオアフルつよふ250		追	

(9)水田畦畔除草

(9)水田畦畔除草

番 号	商 品 名 [試験番号]	有効成分名 及び含有量(%)	使用時期	使用方法及び 10a当たり使用量	土 壌 条 件	対象草種			毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	使用上の注意事項と薬害症状 □薬害症状	新 規 ・ 改 訂
						全 草 種	一 年 生 雑 草	ス ギ ナ				
1	カワノ粒剤4.5 [DBN-4.5]	DBN 4.5%	秋冬処理 (収獲前まで)	6~8kg	全土壌	○		×	1	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する		
2	カワノ粒剤6.7 [DBN-6.7]	DBN 6.7%	秋冬処理 (収獲前まで)	5~6kg	全土壌	○		×	1	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する		
3	クワトロピン [WOC-01]	グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲14日前まで)	一年生雑草 250~500ml、 多年生雑草 500~1,000ml、 散布液量:100L、25L	全土壌	○		×	2	・25L散布は専用器具を使用する ・流入、飛散による水稲への薬害に注意する		
4	サカサ液剤 [AH-01液]	グリホサートイソプロピルアミン塩 11.5%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲7日前まで)	500~1,000ml 散布液量:100~150L	全土壌	○			2	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する		
5	サンダーボルト007 [NH-007]	グリホサートイソプロピルアミン塩 30.0% ヒラフルメチル 0.16%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲14日前まで)	400~600ml 散布液量:100L	全土壌	○		×	2	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する		
6	サンワ-ロ液剤 [AK-01]	グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲14日前まで)	一年生雑草 250~500ml、 多年生雑草 500~1,000ml、 散布液量:50~100L	全土壌	○		×	2	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する		
7	クワサケウインQ [ZK-122]	グリホサートイソプロピルアミン塩 44.7%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲14日前まで)	一年生雑草 250~500ml、 多年生雑草 500~1,000ml、 散布液量:50L(専用ノズルを使用) スギナ 1,500~2,000ml、 散布液量:50~100L (50Lは専用ノズルを使用)	全土壌	○		×	2	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する		
8	ハス外液剤 [Hoe-866]	グリホサートイソプロピルアミン塩 18.5%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲7日前まで)	750~1,000ml 散布液量:100~150L	全土壌	○			3	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する		
9	ラウトアップマックス ロート [NC-622液]	グリホサートイソプロピルアミン塩 48.0%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲前日まで)	200~500ml 散布液量:50~100L 50Lは専用ノズル使用 1,500~2,000ml 散布液量:50~100L 50Lは専用ノズル使用 500~1,000ml 散布液量:50~100L 50Lは専用ノズル使用	全土壌				3	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する		
10	MCPローグ塩 [MCP-N6液]	MCPAナトリウム塩 19.5%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲14日前まで)	200g 散布液量:100L	全土壌	○		○	3	・イネ科雑草に対する効果はない □下葉枯れ		

注1 ×は対象草種から除くことを示す。

注2 畦畔以外に飛散させないように注意して散布する。

注3 水田除草剤は畦畔のり面への散布は避ける。

## (10)水田畦畔除草剤

(10)水田畦畔除草剤(11)休耕田

番 号	商 品 名 [試験番号]	有効成分名 及び含有量(%)	使用時期	使用方法及び 10a当たり使用量	土 壤 条 件	対象草種				本 剤 の 使 用 回 数	使用上の注意事項と薬害症状 <input type="checkbox"/> 薬害症状	新 規 ・ 改 訂
						全 草 種	一 年 生 雑 草	ス ギ ナ	マ メ 科			
1	クラスタフォート液剤 [KUH-913]	ヒスエリハットリウム塩 3.0%	X刈取後草丈10cm以下 (草刈取後10～20日) (収穫前日まで)	300～500ml 散布液量:25L、50～100L	全土壌	○				3	・草種により効果の変動がある ・草丈抑制による刈取り作業軽減 ・少量散布の場合専用ノズルを使用する	

## (11)休耕田

番 号	商 品 名 [試験番号]	有効成分名 及び含有量(%)	使用時期	使用方法及び 10a当たり使用量	土 壤 条 件	対象草種				本 剤 の 使 用 回 数	使用上の注意事項と薬害症状 <input type="checkbox"/> 薬害症状	新 規 ・ 改 訂
						全 草 種	一 年 生 雑 草	ス ギ ナ	マ メ 科			
1	ラウンドアップマックス ロード [NC-622液]	グリホサートカリウム塩 48.0%	雑草生育期 草丈1m以下	200ml、散布液量:25～50L 専用ノズル使用 500ml、散布液量:20～50L 専用ノズル使用	全土壌		○			3		



### 3 畑作物、園芸作物、飼料作物・草地

#### 3-1 共通

##### (1) 除草剤使用上の留意事項

###### ア 全面土壌散布

- (ア) 全面土壌散布とは、雑草の発生前並びに発生直後に薬剤を土壌表面に処理し、土壌表面に処理層を形成して、出芽に必要な水と同時に薬剤が種子に吸収されるか、出芽中並びに出芽直後の幼芽、幼根に接触又は吸収され植物の生理機能をみだし、殺草効果をあげる方法である。
- (イ) 全面土壌散布の除草剤には、効果の持続期間が比較的長いものが多く、使用時期は、作物のは種後から出芽（萌芽）前で、雑草の発生前か発生初期に処理する。
- (ウ) 覆土が浅かったり、覆土むらがあると薬害の危険があるので、砕土、整地をていねいに行い、覆土は均一にする。なお、鎮圧を実施することにより効果を一層高めることができる。
- (エ) 土壌が乾燥している場合は効果が劣るので、散布水量を増すか、土壌水分が適度にある時に散布する。
- (オ) 乳剤、水和剤などの散布にはスプレーを使用し、噴霧口は除草剤専用ノズルを使用する。粉粒剤の散布に当たっては専用の器具を使用する。
- (カ) 散布水量は、10アール当たり100リットルを標準とし、特に散布水量の異なるときは、注意事項に記載している。

###### イ 雑草茎葉散布

- (ア) 雑草茎葉散布には、生育中の雑草に直接薬剤を散布し、接触した部分の組織を破壊して殺草する方法と、茎葉や根から薬剤を吸収させ光合成阻害や細胞分裂阻害など植物体の生理的障害を誘発し、殺草効果をあげる方法とがある。
- (イ) 処理後、降雨があると効果が低下したり薬害を起こすことがあるので、散布後1日程度降雨のない好天の日を選び散布する。
- (ウ) 作物の生育にむらがあると処理時期の決定が困難であり、薬害を生ずる危険があるので生育をそろえるよう配慮する。
- (エ) 散布水量は、10アール当たり噴霧機で70から100リットルを標準とし、雑草に薬剤が均一に付着するよう散布する。  
なお、除草剤によっては、展着剤を加用するものがあるので、必ず所定の展着剤を加用する。
- (オ) 付近の立毛中の作物に飛散しないように散布する。
- (カ) 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。

###### ウ 共通的事項

- (ア) DBN（カソロン）を含む剤は、処理後に地表面から気化して滞留した場合に下枝や果実に薬害を生じるおそれがあるため、空気の滞留しやすい場所での使用を避ける。また、かぼちゃ、うり類などに隣接しているほ場及びその栽培予定地では、異常果の発生要因となるので使用を避ける。
- (イ) ペンディメタリンを含む剤は、後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制されることがあるので、薬剤、後作物の選択に注意する。
- (ウ) 砂土系で有機物の少ない土壌では、薬剤の移動性が大きく、薬害の危険があるので、土壌条件に応じて使用量を少なめにするなどの注意が必要である。
- (エ) 土壌が乾燥し過ぎたり、長雨により土壌が過湿のときは、効果が不安定となるので使用を避け、適当な土壌水分のときに散布する。
- (オ) 使用後のタンク、ブーム、ノズルなどに薬液が残らないよう散布器具は十分に洗浄するとともに、薬液及び洗浄水を河川等に流さず、環境に影響を与えないよう処理する。
- (カ) 散布水量が10アール当たり50リットルより少ない少水量散布では、少水量散布専用ノズルを使用する。散布水量は農薬登録の範囲を厳守する。

## エ 使用時期

麦類、豆類、直播のてんさい及びとうもろこしの出芽前～出芽始の使用時期については、次の区分を基準参考として指導する。

区 分	使 用 時 期	摘 要
は 種 直 後	は種当日～1日後	は種後は、農薬登録上「は種当日～出芽前」である。
は 種 後	は種後2日～5日後	
出 芽 前	は種後6日～出芽2日前	
出 芽 直 前	出芽の前日	
出 芽 始	1個体でも出芽を認めたとき	
出 芽 期	は種粒数の40～50%の出芽を認めた日	
出 芽 揃	は種粒数の80%の出芽を認めた日	

## オ その他

- (ア) 作物に使用できる除草剤が2種類以上列記してある場合は、適宜その中から選択して使用するものとする。
- (イ) 魚毒性分類に代わる新たな評価基準が導入されており、すべての薬剤は新たな評価手法に切り替わっているため、FAMICのホームページ等で確認し、製剤毎の注意事項に基づき使用する。









(1) 麦類

(1) 麦類

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量		対象雑草		効果の程度								毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
			秋まき小麦	春まき小麦	大麦	一年生雑草	イネ科雑草	一年生イネ科	多年生イネ科	アシナガ	タデ類	シロガ	スカタゴボウ	ギギシ類				
12	カレースG [RS4-44] -H14,H18	ジフルエニカン 0.15% トリフルリン 2.0%	は種直後～出芽前 (雑草発生前) 4～5kg	は種直後～出芽前 (雑草発生前) 4～5kg	大麦	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1. 麦の葉身に一過性の白斑を生じることがある。 2. イヌビロシが多発する圃場では使用基準の範囲内で高用量で使用する。		
13	キタシロアフロアフル [KU4-165] -R1,R6,R7	ピロキサリポル 7.4% ジフルエニカン 7.4%	は種直後～小麦出芽前 (雑草発生前～発生始期) 80～100ml 散布水量50～100L	は種直後～小麦出芽前 (雑草発生前～発生始期) 80～100ml 散布水量50～100L	大麦	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1. 雑草の発生前から発生始期まで有効なので、時期を失しないように散布する。 2. 砂土系で透水性のよい圃場や多量の降雨が予想される場合は使用を避ける。 3. 覆土はできるだけ均一、覆土深を2～3cmとする。 4. 水稲、大麦、ソルガムに薬害を生じるおそれがあるため、散布した当年または翌年の栽培をさけること。 (秋まき小麦) 1. 麦の葉身に一過性の白斑を生じることがある。 (少量散布) 1. 50Lより少ない少量散布では専用ノズルを使用する。 (春まき小麦) 1. 乾燥条件では効果が劣る場合がある。 2. 処理後に一過性の白斑または黄化が生じる場合がある。 3. イシビエ、シロアに対して効果が劣る場合がある。 4. 生育の進んだイシビエに対して低用量では効果が劣る場合がある。		追・改
14	クリアターン乳剤 [KU4-901] -H7	ベンチオカーブ 50% ベンデメタリン 5% リニロン 7.5%	は種直後(雑草発生前) 400～600ml	は種直後(雑草発生前) 400～600ml	大麦	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。 2. キク科には効果が劣る。		訂
15	クリアターン細粒剤F [KU4-901] -H9	ベンチオカーブ 8% ベンデメタリン 0.8% リニロン 1.2%	は種直後 (雑草発生前) 4～5kg	は種直後 (雑草発生前) 4～5kg	大麦	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 土壌が乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分の時に散布する。 3. 重複散布は薬害の恐れがあるので、散布ムラがないよう均一に散布する 4. 葉身に白斑点が生じることがある。 5. ツユクサには効果が劣る。		訂
16	ケザガード50 [フロトリン] -S59	フロメリン 50%	は種直後 150g	は種直後 150g	大麦	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前か発生始期に散布する。		





(1) 麦類

(1) 麦類

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量			対象雑草								効果の程度								毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
			秋 まき小麦	春 まき小麦	大麦	一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	一年生イネ科	多年生イネ科	一年生イネ科	多年生イネ科	スズメノカタヒラ	シロガ	タデ類	ハコベ	ナスナ	スカシタゴボウ	ギシギシ類						
25	ラウンドアップアックスロート 〔NCG-622液剤〕 -H30,H31	グリホサートナトリウム塩 48%	秋 まき小麦 耕起または小麦は種前、雑 草生育期(草丈30cm以下) 200~500mL 水量 5~6L	春 まき小麦	大麦	●															3	1. 本剤は播種期を加用しない。 2. 散布後一定時間降雨のない日に散布する(剤によっ て1~6時間)。 3. 周辺の作物に薬液がかからないよう注意するととも に、ドリフト低減ノズル(ラウンドノズル等)の使用が望 ましい。 (少量散布) 1. 専用ノズルを使用する。			
26	ロウガス 〔リニエロン〕 -S40	リニエロン 50%	ほ場内周縁部 小麦生育期、雑草生育期 (草丈30cm以内) 200~500ml 水量 5~6L			●															3	1. ほ場内周縁部散布は作物にかからないことを前提 として処理方法である。 2. 本剤は播種期を加用しない。 3. 散布後一定時間降雨のない日に散布する(剤によっ て1~6時間)。 4. 周辺の作物に薬液がかからないよう注意するととも に、ドリフト低減ノズル(ラウンドノズル等)の使用が望 ましい。 5. 雑草が過繁茂状態では、下繁草に効果が出る場合 がある。 (少量散布) 1. 専用ノズルを使用する。			
27	MCPリーダ塩 〔MCP〕 -S37,H20,21	MCPナトリウム塩 19.5%	は種直後(雑草発生前~発 生始期) 100~150g	麦の5葉期 (雑草生育初期) 200~300g (水量25~100L) (収穫45日前まで)	麦の5葉期 (雑草生育初期) 300g(水量25~100L) (収穫45日前まで)	●															1	1. 除草効果は、高温、晴天時で生育の盛んなときほど 高いので、日中気温が20℃以上の好天日を選び散布 する。 2. 越冬草やタデ類などは、雑穀に至らない場合がある が、種子をつけないか、地面には生長しないことが 多い。 3. クローバ混播の場合は、クローバに薬害が生じるの で、クローバ本葉の2葉期以降に散布する。 (少量散布) 1. 専用ノズルを使用する。			

注: 対象雑草の多年生イネ科はシバムギ・レットトップを示す。

(2)とうもろこし(生食用)

(2)とうもろこし(生食用)

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導致参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	広葉雑草	多年生雑草	シロザ				
1	ケサカ-乳剤 [KUH-901] +H7,H11,H12	ベンチカ-ブ 50% ベンデメタリン 5% リニロン 7.5%	全面土壌散布 は種直後(雑草発生前) 500~800ml	●							1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 土壌が乾燥している場合は効果があるので、土壌が適度の水分の時に散布する。 3. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前から発生初期に散布する。 4. だいす、えだまめ、にんじん、とうもろこしのマルチ栽培では薬害を生じる恐れがあるので使用しない。	
2	ケサノゴ-乳剤 [CG-123α] -H12	アトリン 27.8% S-トラカロール 26.4%	全面土壌散布 は種後発生前(雑草発生前) 140~200ml 生育期 (作物2~4葉期) 全面土壌散布 140~200ml	●							1	1. 砂土系では使用しない。 2. 極端な過湿土壌及び砂質土壌では、生育を抑制することがあり、使用を控える。 3. 元ハに効果が劣る(雑草処理)。 4. 低温等で生育が遅れている場合には、カスリ状の退縮斑を生じることがあるので、量を少なくする(雑草処理)。 5. 生育の遅れる地域(絹綱)などでは2葉期処理とする。 6. 水稲に薬害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稲栽培を選択する。	
3	ケサカ-ト50 [フロホリ] -S59	フロホリン 50%	全面土壌散布 は種直後 150~200g	●							1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前から発生初期に散布する。	
4	ケサフリムフロアフル [アトリン] -S59	アトリン 45%	全面土壌散布 は種後~出芽前 (雑草発生前) 100~200ml 全面土壌散布 及び雑草茎葉 散布 (作物の2~4葉期) 100~200ml	●							1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草の発生前から発生初期に散布すると、最も効果が悪い。 3. 青果用品種(ハース-スーパースト)系については、使用時期を作物の2~3葉期とする。 4. 使用回数は、全面土壌散布又は雑草茎葉散布のいずれか1回とする。	
5	ゴケ-ルS水和剤 [NK-1101] -H29	S-トラカロール 24.8% フロホリン 26.6%	全面土壌散布 は種後~出芽前 (雑草発生前) 225~300g	●							1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 水稲に薬害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稲栽培を選択する。 3. 葉身に脱色、褐変など軽微な薬害を生じることがある。	
6	ゴ-コーサン乳剤 [ANK-553] -S55,S59	ベンデメタリン 30%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 200~300ml	●							1	1. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、雑草の発生前から発生初期に散布する。 2. 処理時期が遅れると、薬害が生じることがある。 3. ツユクサ、キク科雑草に効果がある。 4. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうれんそう及びそばを作付けると生育を抑制することがあるので避ける。	
7	ゴ-コーサン細粒剤 [ANK-553] -H4	ベンデメタリン 2%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 5~6g	●							1	1. 土壌が乾燥している場合は効果があるので、土壌が適度の水分の時に散布する。 2. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、雑草の発生前から発生初期に散布する。 3. 処理時期が遅れると、薬害が生じることがある。 4. 重層散布は薬害の恐れがあるので、散布ムラがないよう均一に散布する。 5. ツユクサ、キク科雑草に効果がある。 6. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうれんそう及びそばを作付けると生育を抑制することがあるので避ける。 7. 青果用品種(ハース-スーパースト)系には、この試験成績が無いため除く。	
8	サタン-バ7乳剤 [ベンチカ-ブ・フロホリ] -S59	フロホリン 5% ベンチカ-ブ 50%	全面土壌散布 は種後出芽前 800~1,000ml	●							1	1. 雑草の発生前では効果が劣る。 2. タネ、シロザ、ハコベに対しては、薬量が少ないと効果の劣る場合がある。	訂

## (2)とうもろこし(生食用)

## (2)とうもろこし(生食用)

薬剤番号	商品名 [試験番号] 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				一年生雑草	イネ科雑草	一年生イネ科雑草	一年生雑草	多年生雑草	シロザ				
9	チユアールコート [CG-119α] -H12,H20	S-トラフロール 83.7%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 70～100ml 作物の1～2葉期 (イネ科雑草2葉期まで) 70～100ml	●							1	1. 砂土では使用しない。 2. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨の続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 3. 水稲に葉害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稲栽培を避ける。	
10	ハサガ液剤 (ナトリウム塩) [BAS-3510(Na)] -S61	ベンカリン(ナトリウム塩) 40%	雑草葉散布 又は全面散布 雑草の3～4葉期 100m(4収穫50日前まで)					●			1	1. 散布後、曇天、降雨日が長く続くことがあつたので、晴天を算計らって散布する。 2. 高温条件下では葉害が生じやすいので、異常高温下での散布は避ける。 3. 青果用品種(ハースト系)には道の試験成績が無いので除く。	
11	ハスタ液剤 [Hoe-866液剤] -R6	グルホシネート 18.5%	雑草葉散布 (畦間処理) とうもろこし生育期・ 雑草生育期(草丈30cm以下) 300～500ml 散布水量100L/10a (収穫7日前まで)	●							3	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布することが必要である。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。	
12	アールドスターP乳剤 [BAS-656乳剤] -H22,H24,H25	ジメタナシP 64.0%	全面土壌散布 は種後～2葉期 (イネ科雑草2葉期まで) 75～120ml	●							1	1. 発芽後の雑草に対しては、効果が劣るので時期を失しないように散布する。 2. 砂土では使用しない。	
13	フルンアア707P乳剤 [SL-573 F] -H27	トリピラレート 10.4%	雑草葉散布 又は全面散布 作物の3～5葉期、 雑草生育期(草丈15cm以下) (但し収穫45日前まで) 40～50ml	●	※スミカビを 除去						1	1. イネ科雑草が多いほ場では、高用量で使用する。 2. 一過性の葉身黄化症状が生じることがある。	
14	ホクサー [SYJ-100] -H19	フロムルホカルブ 78.4%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 400～500ml	●							1	1. 排水不良のほ場や多量の降雨が予想される時は使用を避ける。 2. 覆土が浅いと葉害を発生し易くなるので、覆土は3cm程度とする。	
15	モーティ乳剤 [BAH-0805乳] -H23	ジメタナシP 19.7% ベンデメタリン 23.1%	全面土壌散布 は種後～作物の2葉期 (イネ科雑草2葉期まで) 200～400ml	●							1	1. 多量の降雨が続く時期の散布及びマルチ栽培では、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 砂土、堅地は丁寧に、種子が露出しないように丁寧に、覆土は深さ2～3cm以上とする。 3. 後作物としてかぼちや等のうり科やほうろくそう及びびそを伴付けると生育を抑制することがあるの で避ける。 4. 砂土では、使用しないこと	
16	ラッソ乳剤 [7770P-R] -S58,S59,H20	7770P 43%	全面土壌散布 は種後～出芽前 (雑草発生前) 200～300ml 作物の1～2葉期、雑草生育 期(イネ科雑草2葉期まで) 200～400ml	●							1	1. 土壌が乾いていると効果が劣る。	
17	MCPソーダ塩 [MCP] -S31	MCPナトリウム塩 19.5%	雑草葉散布 又は全面散布 作物の2～3葉期 300g	●							1	1. 散布直後に降雨があると効果が劣るので、なるべく好天の曇り曇り込みの時期に散布する。 2. 高温条件下では葉害が生じやすいので、異常高温下での散布は避ける。 3. 青果用品種(ハースト系)には道の試験成績が無いので除く。	

## (3)豆類

## (3)豆類

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量				対象雑草						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂	
			大豆	小豆	菜豆(いんげんまめ)	えん豆	一年生雑草	イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類					ハコベ
1	エトゾクP乳剤 [NM-636-P] -H24	シメタクトP 8.5% リニエロン 12%	全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 400~600ml											1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、散布後の多量の降雨は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 本剤は眼に強い刺激性があるので、散布液調製時に保護メガネを着用して、薬剤が眼にはいらないように注意する。	
2	クワターン乳剤 [KUH-901] -H7,H13	ベンチオカーブ 50% ハンデイタリン 5% リニエロン 7.5%	全面土壌 散布	は種直後 (雑草発生前) 600~800ml (水量70~100L)											1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 初生葉が黄化、萎縮することがある。 3. ツユクサ、キク科雑草に効果が劣る。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	
3	7フロIPC乳剤 [IPC] -S31	IPC 45.8%	全面土壌 散布	は種後出芽前 200ml	は種直後200ml										1	1. 砂質土壌での使用は避ける。 2. 土壌が乾いていると効果が劣り、過湿のときは葉害が生じやすいので、適温のとき使用する。 3. 生長した雑草には効果が劣るので、発生前に散布する。 4. 気温が20℃以上のときは効果が劣る。	
4	7サカー卜50 7フロリソ -S38,H2	7フロリソ 50%	全面土壌 散布	は種直後100~150g											1	1. 砂土系で透水性のよいほ場、及び出芽前処理や多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前から発生初期に散布する。	
5	ゴザールS水和剤 [NK-1101] -H27	s-メソフロール 24.8% 7フロリソ 26.6%	全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 225~300g (水量70~100L)		は種後出芽前 (雑草発生前) 225~300g (水量70~100L)									1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前から発生初期に散布する。 3. 水稻に葉害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稻栽培を避ける。	
6	サタンハーフ乳剤 [ハンオカーフ-7フロ リソ] -S47	7フロリソ 5% ハンオカーフ 50%	全面土壌 散布	は種後出芽前 800~1,000ml											1	1. 雑草の発生後は効果が劣る。	
7	ザカ液剤 [AH-01] -H22	カルネトPトリウム 塩 11.5%	畦間散 布・株間 散布	畦間散布 大豆生育期(大豆5葉期 以降)・雑草生育期 300~500ml (収穫28日前まで)										3	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。 3. 雑草の草丈30cm以下で散布する。		

(3)豆類

(3)豆類

薬剤番号	商品名 [試験番号] 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量			対象雑草		効果の程度						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
			大豆	小豆 (いんげんまめ)	えん豆	一年生雑草	一年生広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	ツユクサ	一年生イネ科				
8	レノ乳剤 [S-604] [ALH0831] -H8,H12,H16 -H24	グリゾル 24%	大豆 (収穫50日前まで) イネ科雑草6~8葉期(スズメノカタビを除く) 50~75ml(収穫50日前まで)	小豆 (いんげんまめ) (収穫45日前まで) 35~50ml	えん豆 (収穫60日前まで)	●								1	1. やや遅効性であり、効果の発現には1週間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草およびツユクサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 低温時には、効果が劣る場合がある。		
9	大豆ハサゲラン液剤 (ナトリウム塩) [BAS-3510(Na)] -H18,H21,H25	ベンゾアゾノナトリウム塩 40%	雑草茎葉散布又は全面散布 (雑草の生育初期~6葉期まで) 100~150ml (収穫45日前まで)	スズメノカタビ3~5葉期 50~75ml (収穫45日前まで)	えん豆 (収穫60日前まで)	●	●	○						1	1. やや遅効性であり、効果の発現には2~3週間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 50ml/10aの薬量では、スズメノカタビに効果が不十分な場合がある。 3. 低温時には、効果が劣る場合がある。		
10	ダイロゾル [HCW-20] -H24	DCMU 50%	雑草茎葉散布又は全面散布 (雑草の生育初期~6葉期まで) 100~150ml (収穫45日前まで)	小豆生育期、雑草生育期 100~200ml (収穫30日前まで)	えん豆 (収穫60日前まで)	●								1	1. 大豆では葉害を生じ、減収する場合があることを十分認識し、使用者責任において使用する。また、使用に際しては公的指導機関に必ず相談する。 2. 大豆の葉に黄化、縮葉、捲葉が発生し、枯葉、落葉に至り生育抑制される場合がある。 3. 葉害の程度、及び回復には品種、気象、土壌条件などによる差異があり、15%程度減収する場合がある。 4. 「ユウヅル」、「大袖の舞」は他品種より葉斑の発生程度が大きい。 5. 低温、排水不良、過湿、地力不足、養分吸収不足や肥料の濃度障害、連作等により大豆の生育が不良な場合には、葉害を助長し、生育の回復を遅らせることがあるので、使用を避ける。 6. 処理時期について、大豆の2~3葉期では、5~6葉期に比べ葉害回復に多くの日数を要する。 7. 散布時に著しい高温、干ばつになる場合は、使用を避ける。 8. 雑草の生育が進むと除草効果が劣る。 9. シロザ、タニシバ、ヒコ類、イヌホウズキには除草効果が劣る。 10. イネ科雑草やシロザが多く発生する場合は、有効な土壌処理剤やイネ科茎葉処理剤との体系で使用する。		
11	デュアルコート [CG-119α] -H12	S-オラロール 83.7%	全面土壌散布 (雑草発生前) 70~100ml	雑草茎葉散布又は全面散布 (雑草発生前) 70~100ml	えん豆 (雑草発生前) 70~100ml	●	●							1	1. 飛散防止装置を装着し、作物にかからないように畦間、株間に精度良く散布する。 2. 作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。 3. 低薬量では、生育の進んだタデ科雑草に対する効果が劣る。		

## (3)豆類

## (3)豆類

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量				対象雑草	効果の程度					本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
			大豆	小豆	菜豆1) (いんげんまめ)	えん豆		一年生雑草	一年生イネ科	一年生イネ科	一年生イネ科	一年生イネ科			
12	トリアリゾプロフル [NP-66H] -R3,R4	ヒロキサリホリン 3.4% リニユロン 24%	全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 250~350ml			●	○	○	○	○	○	1	乾燥条件では高薬量(350ml)で使用する。 2. 稲、大麦、ソルガムに薬害を生じるおそれがあるので、 散布した当年または翌年の栽培を避ける。	
13	トリアリゾプロフル [NP-66H] -H7,H24	トリアラリン 44.5%	全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 200~300ml	出芽前 (雑草発生前) 200~300ml		●						1	1. 砂土での使用は避ける。 2. 菜豆では初生葉が縮葉することがある。	
14	ナブ乳剤 [NP-55] -S57,H2,H21, H23,H25,H26,R4	セキソジウム 20%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	一年生イネ科雑草3~5葉期 150~200ml (収穫30日前まで)	一年生イネ科雑草6~8葉期(スズメカビラを除く) 200ml (収穫14日前まで)	一年生イネ科雑草6~8葉期(スズメカビラを除く) 200ml (収穫14日前まで)	●	○	○	○	○	○	1	1. スズメカビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 刈草の養分は選別性で完全枯死まで17~10日程度要 するので誤ってまき直しなどしないようにする。	
15	ハサガラ液剤(ナトリウム塩) [BAS-3510(Na)] -S55,H20	ベンゾジメチルピリウム塩 40%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	初生葉展開期 ~本葉抽出始 期(雑草2~3葉 期) 50~70ml			●						1	1. 散布後、曇天、降雨が続くと効果が劣るので、晴天時に 散布する。 2. 高温条件下では、薬害を生じやすいので、異常高温下 での散布は避ける。	
16	ハスタ液剤 [Hoe-866] -H21,H23	ケルボネート 18.5%	畦間敷 布・株間 散布	畦間雑草散布 大豆生育期 (雑草生育期) 300~500ml (収穫28日前まで)	株間処理 本葉5葉期以降雑草生 育期 300~500ml (収穫28日前まで)		●	○	○	○	○	○	3	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方 法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布す ることが必要である。 2. 株間処理についても飛散防止装置を装着し、株間に精 度良く散布する。 3. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部 分に薬害を生じる。	

## (3)豆類

## (3)豆類

薬剤番号	商品名 [試験番号] 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量			対象雑草						効果の程度	毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
			大豆	小豆	えん豆	一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類					
17	ハロカイ液剤 [AC-263] +H8,H9,H10, H11,H20,R4 +H21,H23,H27	イマゾキサゾール系 塩 0.85%	雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布	大豆 出芽直前～出芽前 (雑草発生始期～発生前期) 200～300ml	小豆 出芽直前～出芽前 (いんげんまめ)	えん豆 出芽直前～出芽前 (雑草発生始期～発生前期) 200～300ml	●							1	1. 雑草の発生始期から幼少期にかけて高い効果を示すので、使用時期を逸さないように散布する。 2. 使用時期を逸すと作物の生育に影響が出る恐れがある。 3. 有機燐系殺虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、葉害の恐れがあるので避ける。 4. 周辺の作物に薬液がかからないよう十分注意する。	
18	ピントラクト乳剤 [HSW-971] +H11,H12	フロムリン 15% IPC 25%	全面土壌 散布	大豆生育期(雑草発生始期、雑草2葉期まで) 200～300ml (収穫30日前まで)	小豆生育期(雑草発生始期～2葉期まで) 200～300ml (収穫30日前まで)	雑草生育期(雑草発生始期～2葉期まで) 200～300ml (収穫30日前まで)	●							1	1. 睡眠処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。 2. 作物に飛散すると葉害を生じるおそれがある。 3. 低薬量では効果が劣る。	
19	フィールドスターP乳剤 [BAS-656乳剤] -H14	シメタミドP 64.0%	全面土壌 散布	は種後(雑草発生前)330～400ml			●							1	1. いんげんまめに使用するとき、品種により葉害を生じることがあるので「金時類」以外には使用しないこと。 2. 砂土では使用しない。	
20	フルミオWDG [S-482] +H20,H22	フルミオキサジン 50%	全面土壌 散布	は種後(雑草発生前) 75～120ml	は種後(雑草発生前) 75～120ml	は種後(雑草発生前) 75～120ml	●							1	1. 処理時期が萌芽期に近いと生育抑制を生じる場合があるので、処理が遅れないようにする。 2. 本剤は使用後著しい降雨があると、初生葉に萎縮を生じるおそれがある。 3. 本剤散布に用いた器具類は、タンクホース内に薬剤が残らないよう、使用後できるだけ早く、専用の洗剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、葉害の原因にならないよう注意する。	
21	フロラトラム乳剤 [BAH-1114] +H26	シメタミドP 6.7% ベンデメタリン 6.5% リニエロ 11.4%	全面土壌 散布	は種後(雑草発生前) 400～600ml	は種後(雑草発生前) 5～10g	は種後(雑草発生前) 5～10g	●							1	1. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうろけんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	

(3)豆類

(3)豆類

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量			対象雑草	効果の程度						本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂	
			大豆	小豆 (いんげんまめ)	えん豆		一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類				ハコベ
22	ホルトアワフル [NC-360] +H9,H11,H23	キサロホフエチル 7%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	イネ科雑草3~6葉期 ・イネ科雑草7~8葉期  (収穫30日前まで)	200~250ml 200~300ml  (収穫50日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	1. スズメノカタビを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果が無いので、これらの雑草が混発する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 4. たいすの葉に褐点を生じることがあるが、その後の生育に影響はない。 5. (少水量散布)専用ノズルを使用する。	
23	ラクトアワマックス ロート [NC-622液剤] +H30、H31	グリホサートカリウム塩 48%	雑草茎葉 散布	耕起または大豆は種 前、雑草生育期(草丈 30cm以下) 200~500ml		●	○	○	○	○	○	○	○	○	1. 本剤は展着剤を加用しない。 2. 散布後一定時間降雨のない日に散布する(剤によって1~6時間)。 3. 周辺の作物に薬液がかからないよう注意するとともに、ドリフト低濃ノズル(ラウンドノズル等)の使用が望ましい。 (少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。	
24	ラカサ-乳剤 [AL-513乳剤] +H21	アフラロール 30% リニコロン 12%	全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 400~600ml	は種後出芽前 (雑草発生前) 400~600ml (使用できる品 種:金時(赤系)う ずら)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨の続く時期の散布は、葉雪の恐れがあるので使用を避ける。 2. 土壌が乾いていると効果が劣る。	
25	ラカサ-乳剤 [アフロール] -S54,S55,S56	アフラロール 43%	全面土壌 散布	は種後出芽前 300ml	は種後出芽前 300ml (使用できる品 種:金時(赤系)う ずら)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	1. 本葉1~2葉の一部が欠損縮葉することがある。	
26	ロウカス [リニコロ] -S40,S42,H24	リニコロン 50%	畦間散 布・株間 散布	茎葉兼土壌処理 (畦間・株間) 大豆生育期(本葉5葉期 以降)、雑草生育期(草 丈15cm以下) 100~200g(収穫30日前 まで)		●	○	○	○	○	○	○	○	○	1. 飛散防止装置を装着し、作物にかからないように畦間、株間に精度良く散布する。 2. 作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。	

## (3)豆 類

## (3)豆 類

薬剂番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量				対象雑草	効果の程度						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
			大豆	小豆	菜豆1) (いんげんまめ)	えん豆		一年生雑草	イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類				
27	ロウカス [リニロン] -S40,S42	リニロン 50%	は種直後 100～150g		は種直後 100～150g		●							1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生直前から発生初期に散布する。		
28	ワンコロXWG [SL-122顆粒水和 剤] -H28	フルアジホッフP 7.0% リニロン 30.0%	は種後出芽前 (雑草発生前) 300g				●							1	1. 砂質土で透水性のよい畑や多量の降雨が続く時期の散布は葉害の恐れがあるので仕様を避ける。		
29	ワンゲイトP乳剂 [SL-236(L)] -S62,H元,H22	フルアジホッフP 17.5%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	(大豆、小豆、菜豆)生育期 イネ科雑草3～5葉期 (収穫60日前まで) 75～100ml(水量25～100L/10a)			●							1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカタビラ科雑草とスズメノカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 選効性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるため、誤ってまき直しなどしないように注意する。 (少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。	改	

(4)ばれいしよ

薬 劑 番 号	商 品 名 [試験番号] 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用方法及び使用時期、 10a当たり使用量	効果の程度						本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
				一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生イネ科	一年生イネ科			

①萌芽前散布

1	クラマツス水和剤 [SKH-01] -S49,S63	ジブタンジ 50%	全面土壌 散布	植付後～萌芽前 100～150g	●						1	1. 砂土系で透水性のよい場合や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用は避ける。 2. 雑草の発生前から発生初期に有効である。 3. 高温時の処理は、薬害を生じる恐れがあるので注意する。 4. イネ科雑草に効果がやや劣る。	
2	クレマト乳剤 [S-28] -S57	フタホス 50%	全面土壌 散布	植付後～萌芽前(雑草発生前) 300～400ml	●						1	1. キク科雑草に効果が劣る。	
3	ゴーゴ-サン乳剤 [ANK-553] -S55	ベンチメタリン 30%	全面土壌 散布	植付後～萌芽前(雑草発生前) 200～300ml	●						1	1. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、雑草の発生前から発生初期に散布する。 2. 処理時期が遅れると、薬害を生じることがある。 3. ソユクサ・キク科雑草に効果が劣る。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれん草やびそびそを付けると生育を抑制することがあるので避ける。	
4	ザカ液剤 [AH-01] -H19	ケルホネートPナトリウム塩 11.5%	雑草莖葉 散布	雑草生育期(萌芽前処理) 100～200ml (水量 100～150L)	●						1	1. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に薬害を生じる。	
5	ゼコル水和剤 [INTN-70] -S50	メトリファンジ 50%	全面土壌 散布又は 雑草莖葉 散布	植付後～萌芽直前 100g	●						1	1. 有機質含有量の少ない砂土系の土壌では薬害を生じやすいので使用を避ける。 2. 土壌の乾燥が続く場合は、効果の劣る可能性がある。 3. 散布後、多量の降雨があると、薬害を生じる恐れがある。 4. 品種によっては、葉の真化等の薬害を生じることがある。 5. 散布機の種類、散布機の種類、雑草の種類によって薬害(ばれいしよ)及び後作の秋まき小まを生じることがあるので注意する。 6. 散布当年のはれいしよ後作物にだいこん・はくさいを付けると、処理後100日以上経過してからは種、または移植する。 7. 採種の場合は、散布が遅れるとウィルス病株と混同する恐れがある。	
6	妙チヂカンQ [ZK-122] -H20	グリホサートトリウム塩 44.7%	莖葉処理	植付後萌芽前 (雑草生育期:草丈30cm以下) 250～500ml (散布水量25～50L/10a)	●						1	1. 本剤は農着剤を加工しない。 2. 散布後一定時間(1時間)降雨のない日に散布する。 3. 周辺の作物に薬液がつかないように注意するとともに、飛散の少ないラウンドノズルの使用が望ましい。 (少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。	
7	タイロソソル [HCW-201] -H22	DCMU 50%	土壌散布	植付後萌芽前(雑草発生初期) 100～200ml	●						1	1. 低薬量では除草効果が劣る場合がある。	
8	ソノカ液剤 [NH-611] -H18	ヒラフルメタフェル 0.4%	雑草莖葉 散布	植付後～萌芽前(雑草発生期) 150～250ml		●					1	1. 散布後に発生した雑草には効果が無い。	
9	ハス外液剤 [Hoe-866] -S63	ケルホネート 18.5%	雑草莖葉 散布	植付後～萌芽前(雑草発生期) 200ml	●						1	1. 散布後6時間以内に降雨が予想される場合は散布を避ける。	

## (4)ばれいしよ

(4)ばれいしよ

薬 劑 番 号	商 品 名 [試験番号] 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用方法及び使用時期、 10aあたり使用量	対象雑草						効果の程度	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
				一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	広葉雑草	多年生雑草	シロザ				
10	アールトスターP乳剤 [BAS-656] -R4	ジメトP 64.0%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前) 75~120ml (散布水量100L)	●							1	1. 砂土では使用しないこと。	
11	フルミワWDG [S-482顆粒水和剤] -H28	フルミオキサジン 50%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前) 10g	●			●				1	1. 砂土での使用は避ける。 2. 処理時期が萌芽後に近いと薬害を生じるおそれがあるので、処理を遅れないようにする。 3. ばれいしよの萌芽後に使用すると薬害が生じるので、必ず萌芽前に使用する。 4. 使用後暑い時期がある場合、雑草・雑草・初期の生育抑制を生じるおそれがある。 5. 本剤散布に用いた器具類はタンク・ホース内に薬剤が残らないよう、使用後出来るだけ早く、専用の洗剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないようにする。	
12	ボクサー [SYJ-100] -H19	フロルホルカルブ 78.4%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前) 400~500ml (水量100L)	●							1	1. スズメノカタビラに対しても効果がある。	
13	ムギンゾウ乳剤 [MBH-075] -H29	フロルホルカルブ 46.0% リニロシ 11.5%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前~発生 始期) 400~600ml (水量100L)	●							1	1. イネ科雑草が優先する圃場では規定量の範囲内で高濃度で使用する。 2. 砂質土で透水性のよい畑では薬害を生じるおそれがあるので散布を避ける。 3. 本剤は後作物に対して影響を及ぼすことがあるので注意する。特にアブラナ科、ウリ科、ナス科及びマメ科の作物は影響を受けやすいので、本剤処理後3ヶ月以内にこれら後作物として栽培しない。	訂
14	モテワ乳剤 [BAH-0805] -H26	ジメトP 19.7% ベンチメタリン 23.1%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前) 200~400ml	●							1	1. スズメノカタビラにも効果がある。 2. 萌芽直前の散布では一過性の雑草が生じる場合がある。 3. 後作物として、かぼちゃ等のつりり科やほづれんそう及びそばを作付けすると生育を抑制することがあるので避ける。 4. 砂土では使用しないこと	
15	ラクサー乳剤 [AL-513] -H21	アザクロール30% リニロシ12%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前) 400~600ml	●							1	1. 一過性の雑草を生じるおそれがあるので、種ばれいしよ栽培での使用に際しては留意する。	
16	ラッキー乳剤 [アザクロール] -S57	アザクロール43%	全面土壌 散布 植付後~植付14日後まで (雑草発生前) 300~400ml								1		
17	ロウガス [リニロシ] -S40:H19	リニロシ50%	全面土壌 散布 植付直後~萌芽前(雑草発生始期) 100~150g	●							1	1. 一年生イネ科雑草が多く発生する場合は非イオン系界面活性剤を加用する。 2. 砂土系で透水性の良いほ場や、多量の降雨が緑化時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。	

(4)ばれいしよ

(4)ばれいしよ

薬剂番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、 10a当たり使用量	対象雑草						効果の程度						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規改訂
				一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生イネ科	ツユクサ	ハコベ	タネ類	シロザ	多年生雑草				

②萌芽後雑草茎葉散布

1	セト乳剤 [ALH-0831] -H25	クワシム 24.0%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	イネ科雑草3~5葉期 50~75ml (収穫30日前まで)	●										1	1. やや遅効性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1~2週間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用。 3. スズメノカタビラに対しても効果があるが、低薬量では劣る場合がある。	
2	ア乳剤 [NP-55] -H8,H23	セトキジム 20%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	イネ科雑草3~5葉期 150~200ml (収穫前日まで)	●										2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないようにする。	
3	ホカドアア乳剤 [NG-360] -H19	キサロホアエチル 7.0%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	イネ科雑草3~8葉期 200~300ml (収穫前日まで)	●										1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果がなく、これらの雑草が混在する場合は有効な除草剤との体系で使用。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
4	アサイトP乳剤 [SL-236(L)] -H21,H26	フルアジホアP 17.5%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	イネ科雑草3~8葉期 75~100ml (水量75~100L) (収穫前日まで)	●										1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメノカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用。 3. 遅効性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるため、誤ってまき直しなどしないように注意する。	

③畦間散布

1	サカサ液剤 [AH-01] -H23	ケルホネートPナトリウム塩 11.5%	雑草茎葉 散布	雑草生育期(畦間処理) 300~500ml (水量100~150L) (収穫21日前まで)	●										2	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に薬害を生じる。	
---	--------------------------	---------------------	------------	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--

(5) てんさい

(5) てんさい

薬剤番号	商品名 [試験番号] 指導参考年次	有効成分名及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草		効果の程度						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				一年生雑草	イネ科雑草	シロザ	タネ類	ハコベ	シユクサ	一年生イネ科	多年生イネ科				
1	カロPC乳剤 [CL-IPC] -S34	IPC 45.8%	移植栽培 直播栽培 ば種直後200ml	●									1	1. 沖積土及び砂質土では薬害を生じやすいので注意する。 2. 気温が20℃以上のときには効果がある。	
2	ゼノ乳剤 [S604] -H8,H13,H28	クレジム 24%	一年生イネ科雑草の3~5葉期 35~50ml シバムギ・レッドトップ・スズメノカタビラの3~5葉期 (収穫30日前まで) 一年生イネ科雑草の5~8葉期 50~75ml (収穫30日前まで)	●	●イネ科								2	1. やや選別性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1~2週間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草およびヤブツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 50ml/10aの薬量では、スズメノカタビラに効果が不十分な場合がある。 4. 低温時には、効果が劣る場合がある。	
3	クワダウンIQ [ZK-122液剤] -R2	クリホー-トリウム塩 44.7%	生育期(雑草生育期)(収穫90日前まで) 2倍希釈(0.1mlを1~3箇所/株)(1000ml/10a)	●									2	1. 専用の器具を用いて、作物に付着しないように散布する。 2. 分枝の多い雑草には、2箇所以上散布する。	
4	デュアールゴールド [CG-119α] -H12,H22	s-トラコロール 83.7%	移植後(雑草発生前) 70~100ml (収穫90日前まで) 出芽前期 (雑草発生前期) 70~100ml	●									2	1. 砂土では使用しない。 2. 砂土系で透水性のよい場合や、多量の降雨の続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用をさける。 3. 水稲に薬害が生じる恐れがあるため、使用時期における当年または翌年の水稲栽培を避ける。	
5	ナフ乳剤 [NP-65] -S58,H元,H20,H23	ゼトギンム 20%	一年生イネ科雑草の3~5葉期 (スズメノカタビラを除く) 150~300ml(水量150L) 0.3~0.6ml/水量300ml /ペーパー-ポット6冊 一年生イネ科雑草の6~8葉期 (スズメノカタビラを除く) 200ml(水量100L) (収穫30日前まで) シバムギの3~5葉期 300~400ml (収穫30日前まで)	●	●イネ科								2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は選別性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないようにする。	

(5) てんさい

(5) てんさい

薬剤番号	商品名 [試験番号] 指導参考年次	有効成分名及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量		対象雑草	効果の程度						毒性	本剤の使用回数	新規・改訂	
			移植栽培	直播栽培		シロザ	タネ類	ハコベ	シユクサ	一年生イネ科	多年生イネ科				カスタータメノ
6	ハーフアラカWDG [NBA-061] -H11,H15,H17,H20	メタシロン 70%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・移植活着後 (雑草発生始期～発生前期) 400～600g (水量50～100L) (収穫30日前まで)	・てんさい子葉展開期～発生 抽出期(雑草発生始期～発生 期) ・てんさい2葉期以降(雑草発 生始期～発生前期(収穫30日 前まで)) 250～350g (水量50～100L)	●	○	○	○	○	○	○	○	5	1. 生育の進んだ雑草には効果が劣る場合がある。 2. 非イオン系展着剤を添加する。 3. 雑草及び土壌全面に散布する。 4. 処理直後の降雨で効果が劣るので、降雨が予想される場合には散 布を避ける。 5. 直播についてはてんさいの葉齢が進んでいない幼少個体では生育 が抑制される場合がある。 6. シロザとハコベに対しては葉齢が進むと効果が劣る場合があるの で、雑草発生初期に散布することが望ましい。
7	ビートアップ7プロアル [LPH-002] -H23, H29	フエンチア777Δ 16%	雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布	活着後(雑草発生前期) 400～600ml (収穫60日前まで)	・本葉2葉展開後 (雑草発生前期) 400～600ml (収穫60日前まで)	○	○	○	○	○	○	○	○	3	1. 雑草が大きくなると極端に効果が劣るので適期散布に努める。 2. 水量は、10a当たり50～100Lとする。 3. 低薬量で効果が劣る場合がある。 4. 仮好、仮材料に効果が劣る場合がある。
-H29			・中耕後(雑草発生前期) 400～600ml (収穫60日前まで)												1. 雑草が大きくなると極端に効果が劣る。
-H30			一年生広葉雑草 茎葉処理 育苗期本葉展開後(雑草発 生初期) 500～750ml 水量 150L												1. 雑草が大きくなると極端に効果が劣るので適期散布に努める。 2. 非イオン系展着剤を添加する。 3. 低薬量で効果が劣る場合がある。 4. 仮好、仮材料、タネハに効果が劣る場合がある。
8	7イートスターP乳剤 [BAS-650乳剤] -H20,H22,R3	ジメチアトP 64.0%	全面土壌 散布	移植後(雑草発生前) 75～120ml (水量70～100L) (収穫45日前まで)	中耕後(雑草発生前) 75～120ml (水量70～100L) (収穫45日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	○	2	1. 直播でてんさいに使用する場合には、てんさいの葉齢が進んでいな い個体では、生育が抑制される場合があるので、中耕後(6葉期以降) に使用すること。 2. 砂土では使用しないこと
9	7イートスターP乳剤 [BAS-9104S] -H12,H24,H29	7イートスターP 2.3% フエンチア777Δ 10% S-オキサロール 7.5%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	活着後(雑草発生前期) 500ml (水量50～100L) (収穫90日前まで)	・中耕後(雑草発生前期(てんさい2葉期以降)) 500ml (水量50～100L) (収穫90日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 雑草が大きくなると効果が劣るので適期散布に努める。 2. 水量は、10a当たり50～100Lとする。 3. 水量が多くなるほど、また、薬液調整後の時間が経過するほど結 晶が生じ、散布機のノズルを詰まらせるので、薬液調整後は速やかに散 布する。 4. 高温時の散布は蒸着を生ずる恐れがあるので注意する。 5. Sxノズルがけう及びけうノズルに効果が劣る場合がある。

(5) てんさい

(5) てんさい

薬剤番号	商品名 [試験番号] 指導参考年次	有効成分名及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量		対象雑草							効果の程度						毒性	本剤の使用回数	新規・改訂
			移植栽培	直播栽培	一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	一年生イネ科	シロザ	タネ類	ハコベ	シロクサ	一年生イネ科	多年生イネ科	カタタビラ					
10	へんたい乳剤 [SW-4072] -S45,H28	フェンピロキプロ 14.7%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・活着後(雑草発生前期) 500~600ml (収穫60日前まで) ・中耕後(雑草発生前期) 500~600ml (収穫60日前まで)	・本葉2葉展開後 (雑草発生前期) 500~600ml (収穫60日前まで) ・中耕後 (雑草発生前期) 500~600ml (収穫60日前まで) ・子葉展開期~本葉抽出期 (雑草発生前期) 150~200ml (収穫60日前まで)	●												3	1. 雑草が小さくなど極端に効果がある。 2. 水量は、10a当たり50~80Lとする。 3. 土壌が乾燥している場合効果は劣る傾向があるので水量を多めとする。 4. 水量が多くなるほど、また、葉液調製後の時間が経過するほど結晶が生じ、散布機のノズルをつまらせるので、葉液調製後は速やかに散布する。	
11	へんたい乳剤 [HMB-0901] -HZ3,H27	フェンピロキプロ 9% メタシロキプロ 27%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・移植活着後 (雑草発生前期) 500~700ml (収穫60日前まで)	・第2本葉展開後 (雑草発生前期) 400~600ml (収穫60日前まで)	●												3	1. 生育の遅んだ雑草には効果が劣る場合がある。 2. 水量は、10a当たり50~100Lとする。 3. 非イオン系除草剤を加用する。 4. 散布直後に降雨が予想される場合には使用を避ける。 5. (直播栽培)一過性の葉の黄化が見られることがある。	
12	ホクトロアブル [NC-360] -H9,H11	キサロホソエチル 7%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・一年生イネ科雑草の3~6葉期 200~250ml ・一年生イネ科雑草の7~8葉期 200~300ml ・多年生イネ科雑草の3~6葉期 250~300ml (収穫30日前まで)		●												2	1. スズメカサネを除去し一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカタタビラ等の雑草には効果が無いので、これらの雑草が混生する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
13	ラッキー乳剤 [777R-01] -S57,H24,H25	777R-01 43%	全面土壌 散布	移植後(雑草発生前) 300~400ml(水量100L) (収穫60日前まで)	中耕後(雑草発生前) 300~400ml(水量100L) (収穫60日前まで)	●												3		

(5) てんさい

(5) てんさい

薬 劑 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量		対象雑草	効果の程度						本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
			移植栽培	直播栽培		シロザ	タネ類	ハコベ	シユクサ	一年生イネ科	多年生イネ科			カスタータメシ
14	レナスター水和剤 〔HOK-1911〕 -R4,R5,R7 *フィールドスターP Duo 水和剤	シナジトP 15.4% レナシル 19.2%	全面土壌 散布	移植栽培 ・てんさい移植後・雑草発生 前～始期 (水量80～100L) (収穫60日前まで)	●	シロザ	タネ類	ハコベ	シユクサ	一年生イネ科	多年生イネ科	カスタータメシ	2	使用上の注意事項 〔移植・直播〕 1. シロザに対して効果が劣る場合がある。 2. 砂地で水はけのよい畑では使用を避けること。 3. 高温時の散布は葉をよけるおそれがあるので注意すること。 〔移植〕 1. 非イオン系展着剤を添加する。 〔直播〕 1. 雑草発生始期処理では、非イオン系展着剤を添加する。 2. 前処理剤による体系で使用立る。
15	レナガス水和剤 〔MBH-2003〕 -R5,R6	メタシロ 35% レナシル 40%	全面土壌 散布	移植栽培 ・てんさい中耕後・雑草発生前～始期 300～500g (水量80～100L) (収穫60日前まで)	●	シロザ	タネ類	ハコベ	シユクサ	一年生イネ科	多年生イネ科	カスタータメシ	2	使用上の注意事項 1. 非イオン系展着剤を添加する。 2. イソピエに対して効果が劣る場合がある。 3. タネ類に対して効果が劣る場合がある。 4. 生育の進んだ雑草に対して効果が劣る場合がある。(直播栽培)
16	レナハック水和剤 〔レナシル・PAC〕 -S48,H16	レナシル 40% PAC 30%	全面土壌 散布	移植栽培 ・てんさい中耕後・雑草発生始期 150～300g(水量100L) (収穫60日前まで)	●	シロザ	タネ類	ハコベ	シユクサ	一年生イネ科	多年生イネ科	カスタータメシ	2	使用上の注意事項 1. 砂土系で透水性のよい畑では、葉をよけるおそれがあるので使用を避ける。 2. 生育の進んだ雑草には、効果が劣るので雑草発生始期に散布する。 3. 非イオン系展着剤を150～200ml添加する。 4. 雑草及び土壌全面に散布する。 5. 葉液は十分攪拌し、とどき粉砕しながら散布する。 6. 少量散布の場合には、専用ノズルを使用する。 7. 少量散布の場合、ヒエに対しては効果が劣るので、中耕後に2回目処理を行うのが望ましい。
17	ワンサトP乳剤 〔SL-236L〕 -S62,H19,H25	フルアツホップP 17.5%	全面土壌 散布	移植栽培 ・イネ科雑草の3～6葉期 75～100ml (水量70～100L/10a) (収穫90日前まで)	●	シロザ	タネ類	ハコベ	シユクサ	一年生イネ科	多年生イネ科	カスタータメシ	1	使用上の注意事項 1. スズメカタバタを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメカタバタが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用立る。 3. 選別性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるため、誤って歩き直しなどしないように注意立る。

## (6) そ ば

(6) そ ば

薬 劑 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草		効果の程度						本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
				一年生 雑草	イネ科 雑草	一年生 雑草	多年生 雑草	シ ロ サ	タ デ 類	ハ コ ベ	ツ ユ ク サ			
1	サク液剤 [AH-01] -H21	グリホサートナトリウム塩 11.5%	雑草莖葉 散布 耕起前またはは種前、雑草生育期 (草丈30cm以下) 300～500ml(水量:100L)	●								3	1. 散布直後の降雨は、効果を減ずる。 2. 作物に薬剤が付着すると薬害を生ずる 3. 雑草の草丈30cm以下で処理する。	改
2	多子ダケシQ [ZK-122] -H19	グリホサートナトリウム塩 44.7%	雑草莖葉 散布 耕起前・雑草生育期 250～500ml(水量:25～100L)	●								2	1. 多年生イネ科雑草が15cm以上に再生してから散布する。 2. 本剤は展着剤を加用しない。 3. 散布後一定時間降雨のない日に散布する(1～3時間)。 4. 周辺の作物に薬液がかからないよう注意するとともに、ドリフト低減ノズル(ラウンドノズル等)の使用が望ましい。 5. スキキは除く (少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。	改
3	ラクトアツマツグスロート [NC-622] -H21	グリホサートナトリウム塩 48%	雑草莖葉 散布 耕起前またはは種前 (雑草生育期、雑草丈30cm以下) 200～500ml(水量:50～100L 少水量:25 ～50L)	●								2		改
4	ナブ乳剤 [NP-55] -H11,H26,R3	セトキシム 20%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 イネ科3～5葉期 150～200ml (収穫30日前まで) イネ科6～8葉期 200ml (収穫30日前まで) イネ科3～8葉期 200ml(水量25～50L) (収穫30日前まで)	●						○		1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 広葉の発現は遅効性で完全枯死までに7～10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 (少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。	
5	ホルトフロアル [NC-360] -H26	キサロホップエチル 7.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 そば生育期 一年生イネ科雑草3～6葉期 200～300ml(水量25～100L) (収穫14日前まで)	●						○		1	1. イネ科雑草が完全に枯死するまで5～10日を要する。 2. スズメノカタビラに効果が劣る。 (少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。	

3-2 畑作物【マイナー作物】

【マイナー作物】

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草		効果の程度						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	シロクサ	一年生イネ科				

(7) はつか

1	177 乳剤 〔CG-119 α〕 -H29	セトキンゾム 20.0%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 150~200ml(収穫14日前まで)	●								2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直ししないように注意する。	
2	107 液剤 〔U-107〕 -S44	リニエロン 50%	全面土壌 散布	萌芽期~揃い(収穫120日前まで) 100g	●								1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は葉害の恐れがあるので散布は避ける。 2. 春の追肥、ハローかけの直後に低圧噴霧器でほ場全面に散布する。 3. 萌芽前の処理は効果が劣る。 4. 処理適期を過ぎると葉害を生じることがあるので、適期散布に努める。	

(8) ベにばないんげん

1	177 乳剤 〔CG-119 α〕 -H25	s-メトララロール 83.7%	全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 70~130ml	●								1	1. 砂土系で使用しない。 2. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用をさける。 3. シロザ、イヌカタビラに対して低薬量で効果が劣る場合がある。	
2	177 乳剤 〔NP-65〕 -H19	セトキンゾム 20%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 150~200ml(収穫60日前まで)	●								1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直ししないように注意する。	
3	3 ハサガラ液剤 (ナトリウム塩) 〔BAS-3510(Na)〕 -H19	ベンゾジヒドロキノン 40%	畦間雑草 茎葉散布	生育期(初生葉展開~本葉抽出始期) 100~200ml(収穫45日前まで)									1	1. 散布時の飛散により作物の葉縁の一部に褐変が発生する場合がある。 2. 作物にかからないように散布する。 3. いんげんまめ、せりに使用する場合は、本剤は葉枯・褐変症状の葉害を生じやすく、蒸散の盛んな高温乾燥条件下では葉害により減収することがあるので、雑草害が予想される場合に限り使用する。	
4	717 液剤WDG 〔S-482〕 -H25	フルミキサン 50%	全面土壌 散布	は種後出芽前(雑草発生前) 5~10g	●								1	1. 処理時期が出芽期に近いと生育抑制を生じる場合があるので、処理が遅れないようにする。 2. 本剤は使用後著しい降雨があると、初生葉に萎縮を生じるおそれがある。 3. 本剤散布に用いた器具類は、タンクホース内に薬剤が残らないよう、使用後できるだけ早く、専用の洗剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、葉害の原因にならないよう注意する。	
5	107 液剤 〔U-107〕 -H19	リニエロン 50%	全面土壌 散布	は種後出芽前(雑草発生前) 75~100g	●								1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。	

3-2 畑作物【マイナー作物】

【マイナー作物】

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	効果の程度							毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	一年生雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類				

(9) おうき

1	レド乳剤 〔S-604乳剤〕 -R5	グリホサム 24.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 50~75ml ただし、収穫30日前まで 水量100L	●								4 2 (1 回以内 に)		改
2	アブ乳剤 〔NP-55〕 -H31	セキソジム 20%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~6葉期) 150~200ml 水量100L	●								1		1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅延性に完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。
3	ハサクラ液剤(ナトリウム塩) 〔BAS-3510(Na)〕 -R3	ベンゾチアゾリウム塩 40%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	おうき生育期 ただし、収穫30日前まで 広葉雑草3~4葉期 200ml 水量100L	●								2		1. 黄化および白化の葉害が生じることがある。
4	ハワロイサ-液剤 〔AC-263液剤〕 -H29	イマザモックス・モンゴラム塩 0.85%	雑草莖葉 散布又は 全面土壌 散布	出芽前期(雑草発生始期~揃期) 200~300ml 水量100L	●								1		1. 雑草の発生始期から幼少期にかけて高い効果を示すので、使用時期を逸しないように散布する。 2. 有機リン系殺虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、葉害の恐れがあるので避ける。 3. 周辺の作物に液剤がかからないよう十分注意する。
5	ロウワス 〔U-100〕 -H19	リニエロン 50%	全面土壌 散布	生育期(雑草発生揃期~2葉期) 300ml(収穫60日前まで) 水量100L											1. 作物に飛散すると葉害を生じることがある。 2. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。 3. 雑草の発生始期から幼少期にかけて高い効果を示すので、使用時期を逸しないように散布する。 4. 有機リン系殺虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、葉害の恐れがあるので避ける。
5			全面土壌 散布	は種後出芽前(雑草発生前) 100~150g	●								1		1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。

(10) せんきゆう

1	ローコーデン乳剤 〔ANK-553〕 -H25	ハブイタリン 30.0%	全面土壌 散布	萌芽後(雑草発生前) 300ml(収穫120日前まで)	●											1. 発生後の雑草には、効果が低下するので使用時期を失しないようにする。 2. ツユクサ、キク科雑草に効果が劣る。 3. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうろくそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。
2	ハーブラックWDG 〔NBA-961〕 -R2	メタリオン 70%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	せんきゆう生育期(雑草発生揃期)(但し、収穫30日前まで) 600g 水量100L	●								2		1. 生育の進んだ雑草には効果が劣る場合がある 2. 非イオン系除草剤を加用する 3. 処理直後の降雨で効果が劣るので、散布直後に降雨が予想される場合は、使用を避ける。	
3	ワンサイトP乳剤 〔SL236(L)〕 -H19	フルアジホフP 17.5%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) (スズメノカタビラを除く) 50~100ml(収穫90日前まで)	●								1		1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびヤブツリガサ科雑草とスズメノカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用される。 3. 遅効性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるため、誤ってまき直しなどしないように注意する。	

3-2畑作物【マイナー作物】

【マイナー作物】

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草						効果の程度						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	ツユクサ	一年生イネ科	カスガイ				

(11)としかぶと

1	1コゴローザン乳剤 〔ANK-563〕 -H20	ベンチイタリン 30.0%	全面土壌 散布 とりかぶと生育期(雑草発生前) 300~500ml(収穫90日前まで)	●											1	1. 発生後の雑草には、効果が低下するので使用時期を失しないようにする。 2. ツユクサ、キク科雑草に効果が劣る。 3. 後作物としてかぼちや等のうり科やほうれんそう、そぼを作付けると生育を抑制することがあるのを避ける。	
2	2ハタハアフロアフル 〔HMB-0901F〕 -R2	フェンダリアム 9% メシロソ 27%	雑草茎葉 散布又は 全面散布 とりかぶと生育期(雑草発生前) 700ml(収穫30日前まで)	●											2	1. 生育の遅い雑草には効果が劣る場合がある。 2. 非イオン系農着剤を併用する。 3. 散布直後に降雨が予想される場合には使用をさける。	
3	3アフロ乳剤 〔NP-565〕 -H19	セキンジム 20.0%	雑草茎葉 散布又は 全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 150~200ml(収穫14日前まで)	●											2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直ししないように注意する。	

(12)チコリ(根株)

1	1アフロックス水和剤 〔アロサミ〕 -H23	アロサミド 50.0%	全面土壌 散布 定植後または中耕後(雑草発生前) 300g(収穫60日前まで)	●											2	1. 本剤はキク科、カヤツリグサ科には効果が劣るので、キク科、カヤツリグサ科雑草発育の場合には使用を避けること。 2. 本剤は雑草の発生後では効果が劣るので、散布は必ず雑草の発生前に土壌全面に均一に行うこと。 3. 砕土、整地、覆土は丁寧にすること。 4. 穂端な乾燥土壌または過湿土壌での使用を避けること。散布後に降雨が予想される時は使用を避けること。 5. 散布は噴霧状にならないよう注意すること。特に定植後処理では吐出圧を下げて土壌全面に均一に行い、重複散布を避けること。 6. 砂土や礫を含む土壌での使用は避けること。 7. 移植をする作物では根が露出するような露補えを避け、丁寧に移植を行うこと。	
---	------------------------------	-------------	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--

(13)おけら

1	1キルハ 〔MCN-8501〕 -R4	カーハムナトリウム塩 33.0%	土壌散布 混和・被 覆 定植15日前まで 60L(原液)	●											1	1. 低温期の葉書の発生を防ぐため、薬剤の使用上の注意を遵守する。	
2	2コゴローザン乳剤 〔ANK-563〕 -H23	ベンチイタリン 30.0%	全面土壌 散布 苗圃：は種後出芽前、雑草発生前 本圃・植付後出芽前、雑草発生前 本圃・おけら生育期、雑草発生前 200~300ml(収穫60日前まで)	●											1 3 回 以 上 1 年 間 に 1 回	1. 排水不良のほ場や多量の降雨が予想される時は使用を避ける。 2. 発生後の雑草には効果が低下するので、使用時期を失しないようにする。 3. スズメノカタビラに対しては低薬量では除草効果が劣る場合がある。 4. ツユクサ、キク科雑草に効果が劣る。 5. 後作物としてかぼちや等のうり科やほうれんそう及びそぼを作付けると生育が抑制することがあるのを避ける。	
3	3アフロ乳剤 〔NP-565〕 -H28	セキンジム 20.0%	雑草茎葉 散布又は 全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 150~200ml(収穫30日前まで)	●											2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直ししないように注意する。	
4	4ハアフロアフルWDG	メシロソ 70.0%	雑草茎葉 散布又は 全面散布 おけら生育期(雑草発生前) 600g(収穫30日前まで) 水量100L												2	1. 葉緑部に枯れが発生することがある。 2. 前処理剤との組み合わせで使用する。 3. 非イオン系農着剤を併用する。	



3-2畑作物【マイナー作物】

【マイナー作物】

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草						効果の程度						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂	
				一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草					一年生雑草
<b>(17)なたね</b>																				
1	ハスガ液剤 〔Hoe-866液剤〕 -H27	クワルホネート 18.5%	雑草莖葉 散布 なたね生育期 雑草生育期(は種前又は畦間処理) 300~500ml(収穫30日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布することが必要である。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。	
<b>(18)食用亜麻</b>																				
1	イロイロ 〔DCMU水和剤〕 -H28	DCMU 80%	雑草莖葉 散布 食用亜麻生育期(5~10cm(6葉展開期以降)) 雑草発生前期 60g(収穫60日前まで) 水量100L	●													2	1. 生育が進んだ雑草には効果が劣る。 2. 中耕除草との組合せで使用する。 3. 展着剤は加用しない。		
<b>(19)甘草</b>																				
1	コーゴ-サン乳剤 〔ANK-553(改)〕 -H27	ベンデイタリン 30.0%	全面土壌 散布 は種後出芽前(雑草発生前) 300ml(水量100L) 定植後(雑草発生前) 300ml(水量100L) (ただし収穫90日前まで) 越冬後萌芽前(雑草発生前) 300ml(水量100L)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(年13回)	1. 雑草の生育が進むと効果は低下するので、雑草の発生前に散布する。 2. ツククサ、キク科雑草に効果が劣る。 3. 後作物としてかてかや等のうり科やほうれんそう成ひそぼを作付けると生育を抑制するところがあるので避ける。 4. は種後出芽前処理では生育抑制を生じる場合がある。	
2	ゼルト乳剤 〔ALH-0831乳剤〕 -H31	グリゾム 24.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 75ml(水量100L) (収穫14日前まで)	●													(年39回)	1. やや遅効性であり、効果の発現には1週間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 低温時には効果が劣る場合がある。		
3	トワアサイト乳剤 〔トリフルラン乳剤〕 -H31	トリフルラン 44.5%	全面土壌 散布 甘草定植後~萌芽前期 雑草発生前 300ml(収穫60日前まで) 水量100L	●													(年13回)	1. 砂土及び加温の透水不良ほ場での使用は避ける。 2. 対象雑草はツククサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科、ナス科を除く。		
4	ハワ-ガイザ-液剤 〔AC-263液剤〕 -H29	イマザモックスアモンエウム塩 0.85%	雑草莖葉 散布又は 全面土壌 散布 萌芽前(雑草発生始期) 300ml 萌芽前~萌芽前期(雑草発生始期~発生前期) 300ml 生育期(雑草発生前期~2葉期) 300ml(収穫60日前まで)	●													1 (年間)	1. 有機リン系殺虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、葉害の恐れがあるので避ける。 2. 周辺の作物に液剤がかからないよう十分注意する。 3. 雑草の発生始期から幼少期にかけて高い効果を示すので、使用時期を逃さないように散布する。 4. 有機リン系殺虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、葉害の恐れがあるので避ける。 5. 萌芽前処理との2回処理を行う。		

3-2畑作物【マイナー作物】

【マイナー作物】

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草						効果の程度						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	広葉雑草	多年生雑草	シロサ	タデ類	ハコベ	シロサ	ツユクサ	一年生イネ科	カスメノタビラ				

(20)おうごん(にがねばな)

117ア乳剤 〔NP-55〕 -H27	トリアルリン	44.5%	定植後雑草発生前 200~300ml(収穫90日前まで)	全面土壌 散布	●												1. 砂土及び過湿の透水不良ほ場での使用は避ける。 2. イネ科雑草に対して効果が高く、広葉雑草が多いほ場では高薬量で使用する。 3. 軽微な生育抑制を生じることがある。 4. ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く。	改
---------------------------	--------	-------	---------------------------------	------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---

(21)しゃやく(薬用)

117ア乳剤 〔NP-55〕 -H29	セキンジム	20.0%	雑草生育期(イネ科雑草3~6葉期) 150~200ml(収穫60日前まで)	雑草莖葉 散布又は 全面散布	●												1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
---------------------------	-------	-------	--	----------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(22)だいおう

117ア乳剤 〔ALH-0831乳剤〕 -H31	ケトジム	24.0%	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 75ml(収穫14日前まで)	雑草莖葉 散布又は 全面散布	●												1. やや遅効性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1~2週間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 低温時には効果が劣る場合がある。	
--------------------------------	------	-------	-------------------------------------	----------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

(23)キノア

117ア乳剤 〔NP-55〕 -R2	セキンジム	20%	雑草生育期(イネ科雑草3~6葉期) 150~200ml (収穫14日前まで) 水量100L	雑草莖葉 散布又は 全面散布	●												1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	追
--------------------------	-------	-----	--	----------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

3-3 野菜

●=対象雑草、-=対象外、△=効果が高い、○=効果が高い、△=劣る、空欄=草種別評価なし

3-3 野菜

番号	商品名 〔試験番号〕 (指導致参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草										効果の程度	本剤 の使用回数	新 規 ・ 改 訂
					一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	多年生雑草	カスミソウ	アブラナ科	アカザ科	タデ科	キク科	ハコベ			

(1)だいこん

1	カブタゲル [ZK-122液] -H20	カブサートカリウム塩 44.7%	雑草茎葉散布 耕起または播種7日以前、雑草 生育期(草丈30cm以下)	250~500ml (水量25~50L)	●												1. 薬剤が雑草(草丈30cm以下)の茎葉全体に均一にかかるように散布すること。 2. 播種予定の7日以前に処理するように留意すること。 3. 少量散布の場合には、専用ノズルを使用すること。
2	トリアルサト乳剤 [トリアルサト乳] -S57	トリアルサト 44.5%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	150~200ml	●												1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 散布後、土と混和すると薬害を生じやすいので混和しない。 3. 後作としてイネ科作物やほうろんそらなどの作付予定地では、残効期間を考慮して作付けする。 4. だいこんに使用する場合には、薬害を避けるために、薬量を厳守し、砂土では低薬量で使用する。
3	ア7乳剤 [NP-59乳] -S61	セキソジム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫14日前まで	150~200ml	●												1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。
4	ホルプロフル [NC-360] -H24	キサロホップエチル 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の6~8葉期 収穫14日前まで	200ml	●												1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果がなく、これらの雑草が混発する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 4. 少量散布の場合には、専用ノズルを使用すること。
5	ワザイトP乳剤 [SL-236(L)乳] -H16	フルアジホップ 17.5%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草3~5葉期 収穫45日前まで	50~100ml	●												1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメカカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 遅効性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 4. だいこんに使用した場合は、間引き菜またはつまみ菜として食用に供さない。

(2)にんじん

1	カブタゲル [PL-10乳] -H6	ベンデイタリソ 15% リニエロ 10%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	300~500ml	●												1. 土壌が乾燥していると効果が劣る。 2. ばげしい降雨が予想される場合には、使用を避ける。
2	カブタゲル細粒剤F [PL-10細粒] -H10	ベンデイタリソ 1.5% リニエロ 1.0%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	3~5kg	●												1. ツユクサに効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌が適湿の時に散布する。 3. ばげしい降雨の予想される場合には、使用を避ける。 4. 適用土壌は砂壤土~壤土である。
3	カブタゲル乳剤 [KUH-901乳] -H11	ベンチオカーブ 50% ベンデイタリソ 5% リニエロ 7.5%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	500~700ml	●												1. 低薬量でツユクサに効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌が適湿の時に散布する。 3. 発生後の雑草には効果が劣るので、使用時期を失しないようにする。 4. ベンチオカーブ、ベンデイタリソ又はリニエロを含む農薬の総使用回数は1回まで。
4	ルーマート乳剤 [S-28乳] -H5	フタホス 50%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	300~400ml	●												1. 砂土では薬害を生じやすいので、少なめの薬量で使用する。 2. ノロギク、ツユクサに効果が劣る。 3. 適用土壌は砂壤土~壤土である。



番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草	効果の程度										本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
						一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	多年生雑草	カスターメノ カタビラ	アブラナ科	アカザ科	タデ科	キク科	ハコベ			ツクサ
15	ワカロウWG 〔SL-122顆粒水和〕 -H24 -H29	フルアジホフP 7% リニエロD 30%	雑草茎葉土壌散布 にんじんの3~5葉期 雑草生育期 収穫30日前まで 全面土壌散布 は種後出芽前 雑草発生前	200~250g	●												1	1. 砂質土で養分性の高い畑では雑草を生じることがあるので散布を避ける。 2. 高温時は葉害を生じることがあるので使用しない。 3. 品種により葉害を生じる場合があるので、事前に使用品種における葉害の有無を確認する。
16	ワカサイトP乳剤 〔SL-236(L)乳〕 -H16	フルアジホフP 17.5%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草3~5葉期 (収穫30日前まで)	50~100ml	●												1	1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびワツリグサ科雑草とスズメカカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 選別性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直しなどしないように注意する。

(3)ながいも

1	ワカサイトP乳剤 〔PL-10乳〕 -H9	ベンデイタリン 15% リニエロD 10%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前	400~600ml	●												1	1. ツクサ中に効果がある。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌が適湿の時に散布する。 3. はげしい降雨の予想されるときには使用を避ける。
2	ワカサイトP細粒剤 〔PL-10細粒〕	ベンデイタリン 1.5% リニエロD 1.0%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前	4~6kg	●												1	1. ツクサ中に効果がある。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌が適湿の時に散布する。 3. はげしい降雨の予想されるときには使用を避ける。
3	ワカサイトP乳剤 〔S-28乳〕	アミダス 50%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前	200~400ml	●												1	1. キク科雑草、ツクサ中には効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌適湿のときに散布する。 3. 発生後の雑草には効果が低下するので、使用時期を失わないようにする。 4. 適用土壌は砂壤土~畑土である。
4	ワカサイトP乳剤 〔ANK-553乳〕 -H2	ベンデイタリン 30%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前	300~400ml	●												1	1. キク科雑草、ツクサ中には効果が劣る。 2. 発生後の雑草には効果が劣るので、使用時期を失わないようにする。 3. 土壌が極端に乾燥している時は効果が劣るので、降雨後に散布する。 4. 後作物としてかぼちゃ等うり科やほつれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。
5	ワカサイトP水和剤 〔NK-1101水和〕 -H27 -H30	S-トラフロール 24.8% フロトリン 26.6%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前 畦間土壌処理 萌芽後ただし、植付45日後まで (イネ科雑草2葉期まで)	225~300g	●												1	1. 葉害を生ずるおそれがあるので、砕土、整地および覆土はしていないで行う。 2. 砂土では使用しない。
6	ワカサイトP液剤 〔AH-01液〕 -H21 -H24 -H24	カルボネートPナトリウム 塩 11.5%	茎葉散布 畦間散布 雑草生育期 (収穫30日前まで) 全面雑草散布(草丈30cm以下) 植付後萌芽前 畦間茎葉散布 生育期 雑草生育期(草丈30cm以下)	300~500ml 300~500ml 300~500ml 300~500ml	●												3	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。 3. 作物に飛散しないように散布する。

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草	効果の程度							本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
						一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	多年生雑草	カスターメノ	アブラナ科	アカザ科			タデ科
7	タイロンゾル 〔HCW-201〕 -H22,H24 -H24	DCMU 50%	全面茎葉土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前～雑草発生初期(イ ネ科雑草3葉期以内) 生育期 雑草生育期 畦間茎葉散布 茎葉兼土壌散布 ただし、収穫60日前まで	100～200ml	●	-	○	○	-	-	-	-	-	1	1. 効果の発現に1～2週間程度要する。 2. 本剤の使用回数は植付後萌芽前、または生育期のいずれか1回とする。
8	トリアゾラチン 〔トリアルチン粒〕 -S61	トリアルチン 2.5%	全面土壌散布 植付直後全面または生育初期畦 間(植付30日後まで) 雑草発生前	4～6kg	●	-	△	△	△	△	△	△	△	1	1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 生育期に使用するとき茎葉にかららないように畦間に散布する。
9	ナゾ乳剤 〔NP-55乳〕 -H元	セトキンゾム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3～5葉期 収穫60日前まで	150～200ml	●	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は速効性で完全枯死までに7～10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注 意する。
10	ハズク液剤 〔Hoe-866液〕 -H元	グルホシネート 18.5%	雑草茎葉散布 植付後畦間処理 雑草生育初期～生育期 (雑草草丈20cm以下) 収穫30日前まで	300～500ml	●	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1. 薬剤が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 2. 葉液が茎葉にかかると奇形いもの発生する恐れがあるので、地際部を含め葉液が飛散しないようにに 散布する。 3. 散布後6時間以内以降雨が予想される場合は、散布を避ける。
11	ホルトプロアール 〔NC-360〕 -H19	キザロホップエチル 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3～8葉期 収穫7日前まで	200～300ml	●	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果が少ないので、これらの雑草が混在する場合は有効な除 草剤との体系で使用。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。
12	ロップス 〔リニエロン水剤〕 -H3,H6,H18	リニエロン 50%	全面土壌散布 植付直後 畦間土壌散布 生育期 雑草発生前～萌芽 収穫60日前まで	100～150g	●	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1. 砂質土で透水性のよい畑では薬害を生じることがあるので、散布を避ける。 2. 畦間土壌処理は作物に飛散しないよう注意する。
13	ロップス粒剤 〔MB-206粒〕 -S63	リニエロン 1.5%	全面土壌散布 植付後 雑草発生前	6kg	●	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. 砂質土で透水性のよい畑では薬害を生じることがあるので、散布を避ける。
14	ワザイトP乳剤 〔SL-236(L)乳〕 -H20	フルアジホップP 17.5%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 収穫30日前まで	50～100ml	●	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメノカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除 草剤との体系で使用。 3. 速効性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直 しなどしないように注意する。

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草	効果の程度							毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
						ア ス メ タ ビ ラ	ア ブ ラ ナ 科	ア カ ザ 科	タ デ 科	キ ク 科	ハ コ ベ	ツ ユ ク サ			

(4) さばい

1	177アロマックス水和剤 〔プロサミト・水和〕 -H10,H12	プロサミト 50%	全面土壌散布 は種後 雑草発生前	200~300g (但し、べたが け栽培は100~ 200g)	●	○								1	1. 春まき栽培及びべたがけ栽培に適用する。 2. 出芽から生育が遅延し、収穫時期がやや遅れることがある。 3. 低温期に生育量散布すると生育遅延による収量減が大きくなることがある。 4. 砂土では使用しない。 5. キク科雑草・カヤツリグサは除く。低葉量でシロサに効果が劣る。	
2	710IPC乳剤 〔IPC乳〕 -H10,H11	IPC 45.8%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	春まき 200~300ml 晩春まき 200~400ml	●									1	1. シロサ、スガシタゴボウ、ツユクサ、キク科に効果が劣る。ハコベ、タデ科、スベリヒユに効果が高い。 2. 春まきのべたがけ栽培およびマルチ栽培では葉害が生じるので使用しない。 3. 砂質土壌では使用を避けること。	
3	377アワ液剤 〔AH-01液〕 -H20	カルホシネートPナトリウム 塩 11.5%	畦間茎葉散布 雑草生育期 (収穫前日まで)	300~500ml 水量100~ 150L	●									2	1. 畦間処理は作物にからならないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し畦間に精度良く散布する。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。	
4	777乳剤 〔NP-55乳〕 -S62,H31	セトキンゾム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫30日前まで	150~200ml	●									1	1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で、完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
5	810アワ7フル 〔NC-360〕 -R3,RZ	キザロピツフェル 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 定植後 → 生育期 イネ科雑草3~8葉期 収穫30日前まで	200~300ml	●									1	1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果がなく、これらの雑草が混発する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	改

(5) はくさい

1	101コ-サン乳剤 〔ANK-553乳〕 -H元	ペンテイフリル 30%	全面土壌散布 定植前 雑草発生前	200~300ml	●									1	1. 養生後の雑草には、効果が劣るので使用時期を失しないようにする。 2. はげしい降雨が予想される時には使用を避ける。 3. セル成型苗には葉害が発生する恐れがあるので使用を避ける。 4. 後作物としてかぼちや等うり科やほうれん草、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	
2	107アワサト乳剤 〔トリアルリン乳〕 -S44	トリアルリン 44.5%	全面土壌散布 は種直後(直播) 植穴掘前(移植) 雑草発生前	200~300ml	●									1	1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。	
3	107アワサト粒剤2.5 〔トリアルリン粒〕 -H3	トリアルリン 2.5%	全面土壌散布 は種直後(直播) 定植前(植穴掘前)(移植) 雑草発生前	直播: 3~5kg 移植: 4~5kg	●									1	1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 必ず土壌表面散布で使用する。 3. 後作物としてイネ科作物やほうれん草などの作付予定地では、残効期間を考慮して作付けする。	
4	777乳剤 〔NP-55乳〕 -S62	セトキンゾム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫14日前まで	150~200ml	●									1	1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で、完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 4. イネ科雑草6~8葉期(収穫14日前まで)まで登録拡大(R5)(ただし、使用量200ml/10aのみ)	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草							毒性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
					一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	カ ス メ ノ タ ビ ラ	ア ス メ ノ タ ビ ラ	ア カ ザ 科			

(6)キヤベツ

1	1アケマツの水和剤 〔プロキサリノ水和〕 -H12	プロキサリノ 50%	全面土壌散布 定植直後 雑草発生前 春～夏播移植栽培	300g	●										1. キク科、カヤツリグサ科を除く。 2. イヌビロ、シロザ、タンシバに効果が劣ることがある。
2	2コローサン乳剤 〔ANK-553乳〕 -S61	ペンテイタリノ 30%	全面土壌散布 定植前 雑草発生前	200～400ml	●				△						1. 養生後の雑草には効果が劣るので、使用時期を失しないようにする。 2. はげしい降雨が予想される時には使用を避ける。 3. セル成型苗には葉害が発生する恐れがあるので、そはを付けると生育が抑制することがあるので避ける。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれんそう、そはを付けると生育が抑制することがあるので避ける。
3	3コローサン細粒剤F 〔ANK-553細粒〕 -H元	ペンテイタリノ 2.0%	全面土壌散布 定植前又は定植後～定植翌日 (雑草発生前)	4～5kg	●				△						1. 養生後の雑草には効果が劣るので、使用時期を失しないようにする。 2. はげしい降雨が予想される時には使用を避ける。 3. セル成型苗には葉害が発生する恐れがあるので、そはを付けると生育が抑制することがあるので避ける。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれんそう、そはを付けると生育が抑制することがあるので避ける。 5. 適用土壌は砂壤土～埴土である。
4	4セロ乳剤 〔S-604乳〕 -H20	クロチム 24%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 収穫30日前まで	50～75ml	●										1. やや選別性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1～2週間程度を要するので、誤ってまき直ししないように注意する。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 低温時には、効果が劣る場合がある。
5	5トリアゾラト粒剤2.5 〔トリアル粒〕 -H3	トリアルノ 2.5%	全面土壌散布 定植前(種穴掘前) 雑草発生前	4～5kg	●				△						1. 特にイネ科に効果が強い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 適応作物は、夏どり及び秋どり栽培とする。 3. 散布後、土と混和すると葉害を生じやすいので混和しない。 4. 後作物としてイネ科作物やほうれんそうなどの作物予定地では、残効期間を考慮して作付けする。
6	6アケラ乳剤 〔NP-56乳〕 -S63	セトキシム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3～5葉期 収穫14日前まで	150～200ml	●										1. スズメカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は選別性で、完全枯死までに7～10日程度を要するので、誤ってまき直ししないように注意する。
7	7アケラトスターP乳剤 〔BAS-666乳〕 -H13	ジメチルP 64.0%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 定植後10日まで	50～75ml	●										1. 初期生育抑制を生ずることがあるので薬量を厳守する。 2. アカザ科、アブラナ科、タデ科を除く、一年生雑草に効果がある。 3. 散布直後の多量の降雨は葉害のおそれがあるので、天候をみきわめて散布する。 4. 砂土では使用しない。
8	8ホルトP7乳剤 〔NC-360〕 -H24	キサロホップエチル 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 定植後 イネ科雑草3～6葉期 収穫30日前まで	200ml	●										1. スズメカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果が無いので、これらの雑草が混在する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直ししないように注意する。
9	9アケラ乳剤 〔アケラ乳〕 -S46	アケラ 43%	全面土壌散布 定植直後 雑草発生前 定植8日後まで	200ml	●										1. 出芽後の雑草には効果が無い。 2. 砂質土での使用を避ける。 3. きゅうり、ねぎにかかると葉害を生ずる。
10	10アケラP乳剤 〔SL-236(L)乳〕 -H14	アケラP 17.5%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 収穫30日前まで	50～100ml	●										1. スズメカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 選別性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約5週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直ししないように注意する。

番号	商品名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草	効果の程度							毒性	本剤の使用回数	新規・改訂
						一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	多年生雑草	カスミアメノ	アブラナ科	アカザ科			

(7)レタス

1	1770マックス水和剤 [プロサミト・水和] -H20	プロサミト 50%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 ただし定植14日後まで	200~300g	●				○						1. キク科、カヤツリガサ科を除く。	
---	-----------------------------------	-----------	---------------------------------------	----------	---	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--------------------	--

(8)ブロッコリー

1	1770マックス水和剤 [プロサミト・水和] -H17	プロサミト 50%	全面土壌散布 定植後(移植栽培) 雑草発生前 ただし定植14日後まで	200~300g	●				○						1. キク科、カヤツリガサ科を除く。 2. 根元に薬剤が付着した場合には薬害の恐れがある。	
2	1770マックスP乳剤 [BAS-656乳] -H27	ジメチルP 64.0%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 但し、収穫30日前まで	50~75ml	●										1. 夏期の高温時は薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。 2. アカザ科、アブラナ科、タネ科を除く一年生雑草に効果がある。 3. 散布後の多量の降雨は薬害のおそれがあるので、天候を見きわめて散布する。 4. 砂土では使用しない。	
3	ホルトプロアフル [NC-360] -H26	キサロプロフェル 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 定植後 イネ科雑草3~6葉期 収穫7日前まで	200~300ml 水量25~100L	●										1. スズメカメタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリガサ科の雑草には効果が無いので、これらの雑草が混生する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 4. 少量散布 1. 専用ノズルを使用する。	
4	トリゾサト乳剤 [トリゾサト乳] -(R7)	トリゾサト 44.5%	全面土壌散布 定植後(直播) 雑草発生前	200~300ml	●				○						1. 特にイネ科雑草に効果が無い。ツユクサ科、カヤツリガサ科、キク科、アブラナ科雑草には効果が無い。	新

(9)ほうれんそう

1	1770マックス液剤 [M&B-9057液] -S60	アゾラム 37%	全面土壌散布 春~初夏まき は種直後 雑草発生前	800~1,000ml	●										1. 出芽後の処理では薬害を生じる。 2. 芽出し播種は800mlとする。 3. 雨よけ栽培及びび運作ほ場での使用は避ける。 4. 高温時(25℃以上)では薬害を生じやすいので使用しない。 5. 砂壌土、砂土では薬害を生じやすい。	
2	ハズミト微粒剤 カスター微粒剤 [BJL-861微粒] -H12	タリファト 96.5%	全面土壌混和処理 は種10日前 雑草発生前	30kg	●										1. 適用病害虫は萎凋病、赤腐病、立枯病、根腐病。 2. 地温15℃以下では被覆期間を延長し、10℃以下では使用しない。 3. は種21日前までに土壌表面散布し、15~20cmの深さに土壌混和後、ピニールで7~14日被覆後、2~3日おきに2回以上の耕起によりガス抜きする。	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導致参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	効果の程度										毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
					一年生雑草	一年生 イネ科雑草	多年生雑草	カスターメノ カタビラ	アブラナ科	アカザ科	タデ科	キク科	ハコベ	ツユクサ			

(10)たまねぎ

1	アチノール乳剤 アチノールB乳剤 〔アチノール乳〕 -S54,S58,H9	アチノール 30%	雑草葉散布又は全面散布 ・6月上旬まで雑草3～5葉期 ・倒伏始期以降雑草の草丈10cm 以内 収穫30日前まで (直播栽培) 雑草葉散布又は全面散布 雑草1～2葉期 たまねぎの1葉期以降～6月下旬 まで 収穫30日前まで	100～150ml 30～50ml	●	●											1. 魚毒性が強いので十分留意する。 2. 散布時期が遅れ、夏期高温時の散布は生育の状態によっては、薬害を生じることがあるので、6月上旬までに散布する。 3. 散布は除草剤専用のノズルを使用し、高圧の散布を避ける。 4. イネ科雑草対象薬剤との体系散布を行う。
2	アフロマックス水和剤 〔アフロサミト水和〕 -H25	アフロサミト 50%	全面土壌散布 定植活着後(香播移植栽培) 雑草発生前 収穫45日前まで	300g 200～300g	●												1. キク科、カタツリグサ科を除く、一年生雑草に有効。 1. スズメノカタビラを含む一年生イネ科雑草に有効。
3	カラックス水和剤 〔SKH-01水和〕 〔AKD-7164水和〕 -H25 〔AKD-7164水和〕 -H22	シリアジン 50%	全面土壌散布 定植活着後 雑草発生前 収穫30日前まで (直播栽培) 全面土壌散布 播種後出芽前(雑草発生前)	150～200g 50～100g 75～100g	●	●											1. 特にハコベ、タデ類、シロザ、スカタゴボウ、ノボロギク、スベリヒユに効果が高い。 2. ツユクサに効果が劣る。 3. 砂土、水はけの良い土壌では、薬害を生じる恐れがあるので使用を避ける。また雨の多い時期は使用を避ける。 4. 高温時の散布では薬害を生じる恐れがあるので所定範囲内の少ない量の散布とする。
4	カメート乳剤 〔S-28乳〕 -S52	ブタモス 50%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 収穫60日前まで	200～300ml	●												1. ノボロギク、ツユクサに効果が劣る。 2. 土壌が過湿条件下では、薬害の出ることがあるので使用を避ける。 3. 土壌が極度に乾燥している場合は効果が劣る。 4. 適用土壌は砂壤土～埴土である。
5	アフロPC 〔PC乳〕	IPC 45.8%	全面土壌散布 定植活着後又は中耕後 収穫30日前まで	200～250ml	●												1. 特にハコベ、タデ類、スベリヒユに効果が高い。シロザ、スカタゴボウ、ツユクサに効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している時は効果が劣る。
6	ゴコーンS水和剤 〔NK-1101水和〕 -H27	S-トリアゾール 24.8% フロムリン 26.6%	全面土壌散布 定植活着15日後まで (雑草発生前) 又は中耕除草後 収穫90日前まで	150～225g	●												1. 薬害を生ずるおそれがあるので、砕土、整地および覆土はていねいに行う。 2. 砂土では使用しない。
7	ゴコーン乳剤 〔ANK-553乳〕 -S51,H26 -H19	ベンゾイミダゾール 30%	全面土壌散布 移植栽培 定植活着後 雑草発生前 収穫30日前まで (直播栽培) 全面土壌散布 播種後～本葉2葉期 雑草発生前	300～500ml 200～400ml	●												1. 薬害が多いと生育が抑制されることがある。 2. 発生後の雑草には、効果が劣るので使用時期を失しないようにする。 3. 土壌が乾燥している時は効果が劣るので、希釈水量を多めにするか、又は降雨後に散布する。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうろんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草 一年生雑草 イネ科雑草 一年生雑草 多年生雑草	効果の程度							毒性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
						カ ス メ ノ ビ ラ	ア ス メ ノ ビ ラ	ア カ ザ 科	タ デ 科	キ ク 科	ハ コ ベ	ツ ユ ク サ				ス ベ リ ヒ ユ
8	エコーサン細粒剤F 〔ANK-553細粒〕 -S62	ベンデイメタリン 2.0%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 収穫30日前まで	5~6kg	●	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 土壌が乾燥している時は効果が劣るので、適度な水分のときに散布する。 2. 散布むらのないようにする。 3. 後作物としてかぼちゃやほうれんそう、そぼを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。 4. 適用土壌は砂壤土~埴土である。	
9	コボラル 〔SSH-130粒〕 -H13	トリフルラリン 1.2% ベンデイメタリン 1.2%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 収穫75日前まで	4~6kg	●	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. ツユクサ、キク科雑草を除く一年生雑草で有効。 2. 土壌適温条件で処理する。 3. 適用土壌は砂壤土~埴土である。	
10	ゼノ乳剤 〔S-604乳〕 -H24	クマトラム 24%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期(イネ科の3~5葉期) 収穫21日前まで	50~75ml	●	○	○	○	○	○	○	○	○	3	1. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 2. 効果の発現は運動性で完全枯死までに7日程度を要する。スズメノカタビラは、これよりやや数日を要することがある。	
11	カチカタQ 〔ZK-122液〕 -H19	グリホサートカリウム塩 44.7%	畦間処理:雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、収穫7日前まで	250~500ml (水量25~50L)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	3	1. 薬剤が雑草(草丈30cm以下)の茎葉全体に均一にかかるように散布すること。 2. 少量散布の場合には、専用ノズルを使用すること。	
12	トリアゾラクト乳剤 〔トリフルラリン乳〕 -H3	トリフルラリン 44.5%	全面土壌散布 定植後収穫75日前まで 雑草発生前	200~300ml	●	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリガサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。	
13	トリアゾラクト粒剤2.5 〔トリフルラリン粒〕 -S56	トリフルラリン 2.5%	定植後全面土壌散布又は生育期 畦間土壌散布(但し、収穫75日前 まで) 雑草発生前	4~5kg	●	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリガサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 生育期畦間土壌表面散布を行う場合は、中耕除草後に実施し、作物体に散布しないようにする。	
14	ワ7乳剤 〔NP-56乳〕 -S62,H26	セキジゾム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫14日前まで	150~200ml	●	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は運動性で完全枯死までに7~10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
15	アクトスター-P乳剤 〔BAS-656乳〕 -H25	ジメナト-P 64.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の6~8葉期 収穫14日前まで	75~120ml	●	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. アカザ科、アブラナ科、タデ科を除く、一年生雑草に効果がある。 2. 散布直後の多量の降雨は葉書のおそれがあるので、天候をみきわめて散布する。 3. 砂土では使用しない。	
16	ホウカー 〔SYJ-100〕 -H19	フロキソルホラル 78.4%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 但し、収穫45日前まで	400~500ml	●	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 薬量、希釈水量を厳守し、重複散布は避けること。 2. 葉面散布肥料と混用、又は、肥料散布後の使用を避けること。 3. 他の農薬との混用は避けること。 4. 高温時、又はたまねぎの高葉時期を避けること。	
17	ホルトP70フル 〔NC-360〕 -H12	キヤノホフエチル 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~8葉期 収穫30日前まで	200~300ml	●	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリガサ科の雑草には効果が少ないので、これらの雑草が混生する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
18	モーティ乳剤 〔BAH-0806乳〕 -H25	ジメナト-P 19.7% ベンデイメタリン 23.1%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 但し、定植45日後まで	200~400ml	●	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土での使用は避ける。 2. 後作物としてかぼちゃやほうれんそう、そぼを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	



番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草	効果の程度							毒性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
						一年生雑草	イネ科雑草	多年生雑草	カスズメノ カタビラ	アブラナ科	アカザ科	タネ科				キク科
3	コーサン乳剤 [ANK-553乳] -H3	ベンデイタリン 30%	全面土壌散布 植付後(雑草発生前) 収穫60日前まで	300~500ml	●			△							1. キク科雑草、ツククサには効果が劣る。 2. 発生後の雑草には効果が劣るので、使用時期を失しないようにする。 3. 土壤が乾燥しているときは水を散布する。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほろんそう、そばを作付けると、生育が抑制することがあるので避ける。 5. 適用土壌は壤土~埴土である。	
4	コーサン細粒剤F [ANK-553細粒] -H6	ベンデイタリン 2.0%	全面土壌散布 植付後(雑草発生前) 収穫60日前まで	4~6kg	●			△							1. キク科雑草、ツククサには効果が劣る。 2. 発生後の雑草には効果が劣るので、使用時期を失しないようにする。 3. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほろんそう、そばを作付けると、生育が抑制することがあるので避ける。 4. 適用土壌は砂埴土~埴土である。	
5	セルト乳剤 [S-604乳] -H16	フルトゾム 24%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科の3~5葉期 収穫30日前まで	50~75ml	●										1. やや選別性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1~2週間程度を要するが、スズメノカタビラに対してはさらに期間を要する場合があるので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 低温時には、効果が劣る場合がある。	
6	フワイトP乳剤 [NP-595乳] -S63	セルキンジム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫7日前まで	150~200ml	●										1. スズメノカタビラを除くイネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は選別性で完全枯死までに7~10日間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
7	フワイトP乳剤 [SL-236(L)乳] -H16	フルアジホップ 17.5%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草の3~5葉期 収穫21日前まで	50~100ml	●										1. スズメノカタビラを除くイネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は選別性で完全枯死までに最大約3週間程度を要する。	
<b>(13) なす</b>																
1	トリアゾチオ乳剤 [トリアゾチオ乳] -S44	トリアゾチオ 44.5%	露地栽培・全面土壌散布 定植前(種穴掘前) 雑草発生前	200~300ml	●			△							1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツククサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. マルチ下処理は実面積当り薬量を算出して使用する。	
<b>(14) トマト</b>																
1	トリアゾチオ乳剤 [トリアゾチオ乳]	トリアゾチオ 44.5%	露地栽培・全面土壌散布 定植前(種穴掘前) 又は定植直後、睡眠土壌散布 雑草発生前	200~250ml	●			△							1. 特にイネ科に効果が高い。ツククサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. ハウス・トンネル栽培では気化して薬害の恐れがあるので、使用を避ける。 3. 定植後散布の場合、花期にからないように注意する。 4. マルチ下処理は実面積当り薬量を算出して使用する。	
<b>(15) すいか</b>																
1	レオマト乳剤 [S-28乳] -H6	ブタホス 50%	全面土壌散布 定植・マルチ前 雑草発生前	200~400ml	●										1. キク科雑草、ツククサに効果が劣る。 2. 適応作型は、露地・トンネル、マルチ栽培とする。 3. マルチ下処理は実面積当り薬量を算出して使用する。 4. 適用土壌は砂埴土~埴土である。	
2	トリアゾチオ乳剤 [トリアゾチオ乳] -S46	トリアゾチオ 2.5%	トンネルマルチ栽培 全面土壌散布 定植前マルチ前(種穴掘前) 又は睡眠土壌散布(トンネル除去前) (収穫45日前までの生育期)	定植前2kg 生育期4kg	●			△							1. 特にイネ科雑草に効果が無い。ツククサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 適応作型は、露地・トンネル、マルチ栽培とする。 3. マルチ下処理は実面積当り薬量を算出して使用する。 4. 定植の時、根が直接薬に触れないように注意する。 5. 散布は定植7日以上前とし、マルチをする。その後、定植数日前に定植箇所マルチを切開し、気化した薬剤を揮散させてから定植する。	



番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草							効果の程度							本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
					一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	カ ス タ メ ノ	ア ブ ラ ナ 科	ア カ ザ 科	タ デ 科	キ ク 科	ハ コ ベ	ツ ユ ク サ	ス ベ リ ヒ ユ					
3	377 乳剤 〔NP-55乳〕 -H22	セキソラム 20%	かほちや生育期 雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期) (但し収穫14日前まで)	150~200ml	●													1. スズメカサネを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で、完全枯死までに7~10日程度を要するので、誤っておき直しなどしないよう に注意する。	新		
4	ザクザク液 〔AH-01液〕 -H22	カルホシネートPトリウム 塩 11.5%	かほちや生育期 畦間茎葉散布 雑草生育期(草丈30cm以下) (収穫30日前まで)	300~500ml 水量100~ 150L	●													1. 作物にかからないようにする。	新		

(18)アスパラガス  
ア 苗 床

1	1/100IPC乳剤 〔IPC乳〕	IPC 45.8%	全面土壌散布 は種直後	200~300ml	●													1. ハコベ、タデ類、スベリヒユに効果が悪い。 2. 土壌が乾燥しているときは効果が劣るので、覆土は厚め(2cm)とし、希釈水量を多めにする。 3. 砂質土及び透水性の良い畑では薬害が生じやすいので、使用を避ける。	
---	----------------------	-----------	----------------	-----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

イ 収穫畑(ホワイト)

1	クラゲが水和剤 〔SKH-01水和〕 -S55	シアジン 50%	全面土壌散布 萌芽前または収穫後 (培土後又は培土くずし後) 雑草発生前	200g	●													1. 特にハコベ、タデ、シロサ、オオイヌノカタリ、ノボロギクに効果が悪い。イネ科雑草、ツユクサには効 果が劣る。 2. 出芽前より出芽初期(2~3葉期)の雑草を枯死させるが、雑草発生前の散布が最も高い除草効果を 示す。 3. 雑効は、春処理(培土後46日、培土くずし後処理45~60日)である。	
2	1/100IPC 〔IPC乳〕	IPC 45.8%	全面土壌散布 培土後 雑草発生前 収穫30日前まで	250~300ml	●													1. ハコベ、タデ類、スベリヒユに効果が悪い。 2. 土壌が乾燥しているときは効果が劣るので、適温度の時散布する。 3. 除草効果は低温時に高い。	
3	セコル水和剤 〔INTN-70水和〕 -S51	ホリフジン 50%	全面土壌散布 又は雑草茎葉散布 萌芽前~萌芽始期 全面土壌散布 又は雑草茎葉散布 収穫打切後 (培土後又は培土くずし後) 雑草発生前~雑草4.5葉期	100~150g	●													1. 暖(湿)寒風開後に散布した場合に、葉害を生じることがあるので播種開閉前に散布し、使用量を厳守 する。 2. 有機質含有量の少ない土壌では使用量の範囲内で少な目の薬量を使用する。 3. 隣接ほ場、特にてん菜、アブラナ科野菜などへの飛散による薬害に注意する。 4. 苗床及び未収穫養成畑では、使用を避ける。また、未収穫養成畑において間作物を作付けする場合 は使用しない。 5. 適用土壌は砂壤土~埴土である。	
4	1/100ワス リニエロ水和剤 -S40	リニエロ 50%	全面土壌散布 萌芽前(培土後) 雑草発生前~始期	150g	●													1. 雑草の発生始期の処理で、効果が悪い。	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草 一年生雑草 イネ科雑草 一年生雑草 多年生雑草	効果の程度							本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
						ア ス メ ノ ビ ラ	カ タ タ ビ ラ	ア ス メ ノ ビ ラ	ア カ ザ 科	タ テ 科	キ ク 科	ハ コ ベ		

ウ 収穫畑(グリーン)

1	カララガス水和剤 [SKH-01水和] -S55	シアンジン 50%	全面土壌散布 萌芽前又は収穫後 雑草発生前	200g	●										1. 特にハコベ、タデ、シロザ、オオイノソバ、ワホコギなどに効果が高い。イネ科雑草、ツユクサには効果 が劣る。 2. 萌芽前より萌芽初期(2~3葉期)の雑草を枯死させるが、雑草発生前の散布が最も高い除草効果を 示す。
2	カメムシ乳剤 [S-28乳] -H9	アキサリス 50%	全面土壌散布 萌芽前 雑草発生前	200~400ml	●		△								1. キク科雑草、ツユクサに効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌が適湿の時に散布する。 3. 発生後の雑草には効果が劣るので使用時期を失しないようにする。 4. 適用土壌は砂壤土~埴土である。
3	サカサ液剤 [AH-01] -H20,H23,H28	グルホシネートPナトリウム 塩 11.5%	アスバラガス萌芽前 (雑草生育期(草丈30cm以下)) アスバラガス収穫前日まで (雑草生育期(草丈30cm以下)、 畦間茎葉散布) アスバラガス収穫打ち切り後 (雑草生育期(草丈30cm以下) 全面茎葉散布)	300~500ml	●										1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度 良く散布する。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に薬害を生じる。 3. アスバラガスの立茎殺増で使用する場合は、萌芽している若葉に薬害を生じるおそれがあるので、散 布後新たに萌芽した若葉を用いて立茎するのが望ましい。 4. 散布1時間以内に隣畦が予想される場合は、散布を避ける。
4	セロカ乳剤 [S-60乳] -H16	カトジン 24%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科雑草3~5葉期 収穫前日まで	500ml	●	●									1. やや選別性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1~2週間程度を要するが、アスメノカ タビラに対してはさらに期間を要する場合がありますので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草およびワツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系 で使用する。 3. 低温時には、効果が劣る場合があります。
5	ゼンコ水和剤 [NTN-70水和] -S51	メトアジン 50%	全面土壌散布 又は雑草茎葉散布 萌芽前 全面土壌散布 又は雑草茎葉散布 収穫打ち切り後 雑草発生前~4、5葉期 雑草生育期又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫前日まで	100~150g	●										1. 雑草の葉裏側に散布した場合に、薬害を生じることがあるので雑草葉裏側に散布し、使用量を厳守 する。 2. 有機質含有量の少ない土壌では使用量の範囲内で少ない量の薬量を使用する。 3. 隣接は場、特にこん葉、アブラナ科野菜などへの飛散による薬害に注意する。 4. 苗床及び未収穫成畑では、使用を避ける。また、未収穫成畑において間作物を作付けする場合 は使用しない。 5. 適用土壌は砂壤土~埴土である。
6	チナ乳剤 [NP-56乳] -S61	セキジン 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫前日まで	150~200ml	●										1. アスメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように 注意する。 4. イネ科雑草0~8葉期(収穫前日まで)まで登録拡大(R5)(ただし、使用量200ml/10aのみ)
7	ハスガ液剤 [Hoe-866液] -S63	グルホシネート 18.5%	雑草茎葉散布 雑草生育期萌芽前又は畦間処理 雑草発生初期~生育期(雑草の 草丈20cm以下) 収穫前日まで	300~500ml	●										1. 雑草茎葉に均一に散布する。 2. 散布後6時間以内に降雨が予想される場合は、散布を避ける。 3. 畦間処理は作物にかからないように留意する。

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草	効果の程度							本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
						一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	多年生雑草	カタビロ	アブラナ科	アカザ科			タデ科
8	ワザイトP乳剤 〔SL-236(L)液〕 -H17	フルジホフP 17.5%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科雑草の3～5葉期 収穫前日まで	50～100ml	● ●	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメノカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 選別性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直しなどしないように注意する。
9	ワザイトPマックスロード 〔NC-622〕 -H29	グリホサートカリウム塩 48%	アスパラガス収穫中 (雑草生育期(草丈20～25cm以 下) 、畦間茎葉散布)	1,500ml (水量 100L/10a) 2,000ml (水量25～ 100L/10a)	● スギナ	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1. 少量散布の場合は専用ノズルを使用する。

(19) いちご

1	ワザイトP乳剤 〔NP-55乳〕 -S63	セトキシム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3～5葉期 収穫開始14日前まで	150～200ml	●	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は選別性で完全枯死までに7～10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。
2	ワザイトP乳剤 〔アラコロ乳〕 -S49	アザクロール 43%	全面又は株間土壌散布 定植後又は春季・マルチ前 雑草発生前 収穫60日前まで	150～200ml	●	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1. 砂土での使用を避ける。

(20) 食用ゆり

1	ワザイトP乳剤 〔セトキシム乳〕 -H19	セトキシム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3～5葉期 収穫30日前まで	150～200ml	●	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は選別性で完全枯死までに7～10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。
2	ワザイトP水和剤 〔リニロン水和〕 -H19	リニロン 50%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前～始期	100～150g	●	-	-	-	-	-	-	-	-	1	

(21) みつば

1	ワザイトP水和剤 〔リニロン水和〕 -H19	リニロン 50%	全面土壌散布 播種後出芽前 雑草発生前	100～150g	●	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
---	------------------------------	----------	---------------------------	----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

(22) もりあざみ(やまごぼう)

1	ワザイトP水和剤 〔ワザイト水和〕 -H19	アピサミド 50%	全面土壌散布 播種後出芽前 雑草発生前	150～200g	●	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. キク科、カヤツリグサ科を除く、一年生雑草に有効。
2	ワザイトP乳剤 〔セトキシム乳〕 -H19	セトキシム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3～5葉期 収穫7日前まで	150～200ml	●	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は選別性で完全枯死までに7～10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草 一年生雑草 イネ科雑草 多年生雑草	効果の程度							本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
						ア ブ ラ ナ 科	カ タ ス メ ノ	ア カ ザ 科	タ テ 科	キ ク 科	ハ コ ベ	ツ ユ ク サ		
<b>(23) わさびだいこん</b>														
1	ロップス [リネロン水和] -H19	リネロン 50%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前～発生始期	100～150g	●		○				○		1	
<b>(24) あさつき</b>														
1	ロップス [リネロン水和] -H19	リネロン 50%	全面土壌散布 植付直後～萌芽前 雑草発生前～発生始期	150g	●								1	
<b>(25) さやいんげん</b>														
1	ハリーカイサイ-液剤 [AC-263] -H29	イマザモップガスアンモニウム 塩 0.85%	雑草茎葉散布又は全面土壌散布 出芽直前～出芽期 雑草発生始期～発生揃期	200～300ml	●	広葉							1	1. 雑草の発生始期から幼少期にかけて高い効果を示すので、使用時期を逃さないように散布する。 2. 使用時期を逸すると作物の生育に影響が出る恐れがある。 3. 有機リン系殺虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、薬害の恐れがあるので避ける。 4. 周辺の作物に薬液がかからないよう十分注意する。
<b>(26) 実えんどう</b>														
1	ファミオWDG [S-482] -H31	ファミオキサジン 50%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	5～10g	●	広葉							1	1. 処理時期が出芽期に近いと生育阻害を生じる場合があるので、処理が遅れないようにする。 2. 本剤は使用後著しい降雨があると、初生葉に萎縮を生じるおそれがある。 3. 本剤散布に用いた器具類は、タンクホース内に薬剤が残らないよう、使用後できるだけ早く、専用の洗剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないよう注意する。



雑草防除ガイド掲載農薬一覧(除草剤)

3-5 果樹

3-5 果樹

番 号	商品名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	日取 数種 前	主な対象雑草と10a当たり製品使用量(水量)			作用型	毒回本 性 数 の 使用	使用上の注意事項 新 規 ・ 改 訂
					一年生雑草	多年生雑草 及 多年生 雑草	その他			

(1) りんご

1	カバシリンG [DBN] -S46	DBN 6.7%	雑草処理 春期雑草発生期	-	-	-	幼木 8kg 成木 10kg	非ホルモン型 移行性	1. エソノギンギン、ヨモギ、タンポポ、ヤブガラシ等の広葉雑草対象。 2. エソノギンギンの株に0.8~1.0gのスプロット処理も効果がある。 3. 雑草の生育状態により薬量を減らしてもよい。 4. 運動性な雑草の生育初期に処理する。 5. 三年生未満の幼木及び樹勢の弱い樹には使用を避ける。 6. 極端な砂質土壌では使用しない。
2	カバシリンG [WOC-01] -H10	グリホサートイソプロピル アミン塩 41%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	7	250ml (50~100L)	500ml (50~100L)	-	非ホルモン型 移行性	1. 本剤は吸収移行するので散布に当たっては、りんごの枝梢・根ばえ にかからないように注意する。
3	タチザウガQ [ZK-122] -H19	グリホサートカリウム塩 44.7%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	5	500ml (25~100L)	500~1000ml (25~100L)	-	非ホルモン型 移行性	1. 本剤は吸収移行するので散布に当たっては、りんごの枝梢・根ばえ にかからないように注意する。 2. 専用少量散布ノズルを使用し、散布むらのないよう注意する。
4	ハスダ液剤 [Hoe-866] -S60	グリホサート 18.5%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	21	-	※500~750ml (100~150L)	-	非ホルモン型 接触性 移行性	1. 一年生雑草でも茎部が木質化している場合は効果が劣る。 2. 薬液が雑草全体に付着するように散布する。
5	ラウドアブ マックスロード [NC-622] -H22	グリホサートカリウム塩 48%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	7	-	500~1000ml (25~100L)	-	非ホルモン型 移行性	1. 本剤は吸収移行するので散布に当たっては、りんごの枝梢・根ばえ にかからないように注意する。 2. 散布水量が50L/10a以下の場合、少量専用散布ノズルを使用し、 散布むらのないよう注意する。

(2) ぶどう

1	タチザウガQ [ZK-122] -H19	グリホサートカリウム塩 44.7%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	5	500ml (25~50L)	500~1000ml (25~100L)	-	非ホルモン型 移行性	1. 本剤は吸収移行するので散布に当たっては、りんごの枝梢・根ばえ にかからないように注意する。 2. 専用少量散布ノズルを使用し、散布むらのないよう注意する。
2	ハスダ液剤 [Hoe-866] -S61	グリホサート 18.5%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	前日	-	※500~750ml (100~150L)	-	非ホルモン型 接触性 移行性	1. 一年生雑草でも茎部が木質化している場合は効果が劣る。 2. 薬液が雑草全体によく付着するように散布する。

3-5 果樹

3-5 果樹

商品名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	主な対象雑草と10a当たり製品使用量(水量)			作用型	回数 毒性の使用	使用上の注意事項	新規 ・ 改訂
			一年生雑草	多年生雑草	一年生雑草 及び多年生 雑草				
1 ハス液剤 〔Hoe-866〕 14元	カルボネート 18.5%	雑草茎処理 雑草生育期 香及び夏処理 草丈30cm以下	—	※500～750ml (100～150L)	—	非ホリモン型 接触性 移行性	3	1. 一年生雑草でも茎部が本質化している場合は効果劣る。 2. 薬液が雑草全体によく付着するように散布する。	

(3) おとう

(4) 除草剤の作目別適用範囲

商品名・〔商品名〕	りんご	ぶどう	おとう	なし	まも	瓜蒴莖果類	果樹類	新規・ 改訂
1 DBN粒剤〔カリオン粒剤6.7〕	●							改
2 グリホサートカリウム塩液剤(48%)〔ケト・アクト マックスロート〕	●			○	○		○	
3 グリホサートイソプロピルアミン塩液剤(41%)〔ケト・ケンケ〕	●						○	
4 グリホサートカリウム塩液剤(44.7%)〔ケト・ケルケQ〕	●	●					○	
5 グリホサート液剤(18.5%)〔ハス液剤〕	●	●	●	○	○	○	○	改

【共通留意事項】

- ① グリホサートを含む薬剤の総使用回数は3回以内。
- ② 水量の記載がない薬剤は、通常散布量の「100L/10a」程度とする。
- ③ 適用範囲一覧の記号：●は指導参考があり、登録を有する剤、○は登録はなし、指導参考はなし。
- ④ 各ページで「主な対象雑草と10a当たり製品使用量(水量)」欄で「※」印のあるものは、指導参考となった試験で「雑草全般」欄で「雑草全般」欄で「※」印のあるものを登録の内容に合わせたもの。

雑草防除ガイド掲載農薬一覧(除草剤)

3-6 飼料作物

(1)とうもろこし(飼料用)

番 号	商 品 名 [試験番号] (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 使用量	主な対象雑草							毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
					シ ロ ザ	タ チ 類	ハ コ ベ	ソ コ ク サ	ギ ン ギ ン 類	イ チ ビ	一 年 生 イ ネ 科				
1	7アルファート液剤 [NP-65] (H26-p268) (H27-p211)	トフラザン 3.6%	雑草葉散布又は全面散布 とうもろこし3~5葉期 (但し、収穫45日前まで)	100~150ml	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 散布時の展開葉に葉害(黄斑)を生じる場合があるが、その後の生育、収量には影響が無い。 2. 雑草発生が多い圃場では、初期生育での競合が懸念されるため、土壌処理剤との併用処理が望ましい。	
2	エコトップP乳剤 [NM-536-P] (H24:H26-p270)	ジメナチンP 8.5% リンロシ 12%	雑草葉散布又は全面散布 (とうもろこし6~7葉期、一年 生雑草・イチビを含む) (但し、収穫45日前まで)	400~600ml	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 本剤は眼に強い刺激性があるので、散布液調製時に保護メガネを着用して、薬剤が眼にはいらないように注意する。	
3	カイワック乳剤 [PL-10] (H7:H8-p144)	ベンデメタリン 15% リンロシ 10%	全面土壌散布 は種直後 (雑草発生前)	400~500ml	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前か発生初期に散布する。 3. 新葉のねじれ、葉先枯れなどが発生する場合があります。	
4	カイワック細粒剤F [PL-10] (H8:H10-p286)	ベンデメタリン 1.5% リンロシ 1.0%	全面土壌散布 は種直後 (雑草発生前)	5~6kg	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 土壌が乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分の時に散布する。 3. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前か発生初期に散布する。 4. 重複散布は葉害の恐れがあるので、散布ムラがないよう均一に散布する。 5. 新葉のねじれ、葉先枯れなどが発生する場合があります。	
5	7クリアタン乳剤 [KUH-901] (H7-p128) (H12-p316)	ベンチカカブ 50% ベンデメタリン 5% リンロシ 7.5%	全面土壌散布 は種直後 (雑草発生前)	500~800ml	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. ソコクサ、キコク雑草に効果が劣る。	
6	ケサノコントロール [CG-123α] (H12:H23-p265)	アトランジ 27.8% S-メトフロール 26.4%	全面土壌散布 は種直後 (雑草発生前)	140~200ml	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土では使用しない。 2. 極端な過湿土壌及び砂質土壌では、生育を抑制することがあるので、葉量を少なくする。 3. 使用回数は全面土壌散布又は雑草葉散布のいずれか1回とする。 4. 生育の遅れる地域(根制)などでは、2葉期に散布する。 5. 使用回数は全面土壌散布又は雑草葉散布のいずれか1回とする。 6. 後作物として水稲を作付けると葉害が生じる恐れがあるので、使用は、場における当年または翌年の水稲栽培は避ける。	

(1)とうもろこし(飼料用)

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 使用量	主な対象雑草						毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
					シ ロ ザ	タ デ 類	ハ コ ベ	ツ ク サ	ギ シ ギ シ 類	イ チ ビ				
7	ケサフリプロアブル 〔アトラン〕 (S59)	アトラン 45%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 全面土壌散布及び雑草茎葉 散布 とうもろこし2~4葉期 (雑草発生前期)	100~200ml	○	○	○	○				1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨の続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草の発生前から発生前期に散布すると、最も効果が高い。 3. 使用回数には全面土壌散布又は雑草茎葉散布のいずれか1回とする。 4. とうもろこし2~4葉期の茎葉処理において、ハルガヤの実生に効果がある。	
8	ゴゴールS水和剤 〔NK-1101〕 (H29-p187)	S-トリアロール 24.8% プロトリン 26.6%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	225~300g	○	○	○	○				1	1. 土壌が乾いていると効果が劣る。 2. 後作物として水稻を作付けると葉害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稻栽培は避ける。	
9	ゴゴールサン細粒剤 〔ANK-563〕 (S55-p200)	ベンゼイタリン 30%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	200~300ml	○	○	○	○				1	1. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、雑草の発生前か発生初期に散布する。 2. 処理時期が遅れると、葉害が生じることがある。 3. ソユクサ、キク科雑草に効果が劣る。 4. 後作物としてかぼちゃや等のつり科、ほうれんそうやそばを作付けると生育が抑制することがあるのを避ける。	
10	ゴゴールサン細粒剤F 〔ANK-563〕 (H4-H5-p146)	ベンゼイタリン 2%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	5~6kg	○	○	○	○				1	1. 土壌が乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分の時に散布する。 2. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、雑草の発生前か発生初期に散布する。 3. 処理時期が遅れると、葉害が生じることがある。 4. 重複散布は葉害の恐れがあるので、散布ムラがないよう均一に散布する。 5. ソユクサ、キク科雑草に効果が劣る。 6. 後作物としてかぼちゃや等のつり科、ほうれんそうやそばを作付けると生育が抑制することがあるのを避ける。	
11	シトール水和剤 〔NC-3317水和剤〕 (H24-p288) (H27-p209)	ハロメプロロンメタル 5%	雑草茎葉散布又は全面散布 とうもろこし3~5葉期、イチビ2 ~5葉期	50~75g						○		1	1. 砂土系では使用しない。 2. 有機リン系殺虫剤との混用及び7日以内の近接散布は、葉害を生ずることがあるので避ける。 3. 周辺作物、特にてんさいやあぶらな科作物に対して、葉害を生ずるおそれがあるので飛散しないように注意して散布する。 4. 使用後、タンク、ホース、ノズル内に薬液が残らないよう散布器具は十分に洗浄し、他の用途に使用する場合は、葉害の原因にならないよう注意する。 5. 飼料用とうもろこしで散布数日後、一時的に縞状の退色、生育抑制を生ずることがあるが、その後の生育に影響しない。 6. 飼料用とうもろこしで耕作土壌の反転等により、極端に土壌の有機物含量が少ない場合、縞状の退色、生育抑制の葉害を生じる恐れがあるので使用を避ける。 7. 散布直後の降雨によって葉害を生ずる恐れがあるので、天候を早極めて散布する。 8. 通常の輪作体系では後作物に影響はないが、本剤使用後短期間に飼料用とうもろこし以外の作物のものは避ける。 9. イチビ、キクイモ以外の雑草については、北海道指導参考となっていない。	
12	カチカウシQ 〔ZK-122液剤〕 (H21-p296)	グリホサートカリウム塩 44.7%	雑草茎葉散布 不耕起、は種後出芽前(雑草 生育期) 散布水量: 50~100L	200~400ml	○	○	○	○				2	1. とうもろこし出芽後の使用は枯死するので避ける。 2. 専用ノズルを使用する。 3. 泥炭土での使用は避ける。	
			キクイモ(雑草茎葉散布) (とう もろこし5葉期)	50~75g								1	1. ~9. までの注意事項は同上。 10. キクイモは枯死に至らないため再生するが、とうもろこし収穫時の低下は大幅に軽減できる。 11. とうもろこし4葉期までの処理では、収量低下軽減効果は期待できない。	

(1)とうもろこし(飼料用)

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 使用量	主な対象雑草						毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
					シ ロ ザ	タ デ 類	ハ コ ベ	ツ ク サ	ギ シ ギ シ 類	イ チ ビ				
13	デュールコート (乳剤) [CG-119 α] (H1:H23-p248) (H20:H23-p267)	S-メトラフロール 83.7%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)  全面土壌散布 とうもろこし1~2葉期、イネ科 雑草2葉期まで	70~100ml								1	1. 砂土では使用しない。 2. 砂土系で透水性の良い圃場や、多量の降雨の緑(時期)の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 3. 後作物として水稲を作付けると葉害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稲栽培は避ける。	
14	ハサガラ液剤 (ナトリウム塩) [BAS-3510(Na)] (S61-p195)	ベンダリン 40%	雑草茎葉散布又は全面散布 広葉雑草の3~4葉期 (収穫50日前まで)	100ml								1	1. 散布後、曇天、降雨日が続くと効果が劣ることがあるので、晴天を見計らって散布する。 2. 高温条件下では葉害が生じやすいので、異常高温下での散布は避ける。	
15	ハーモニー75DF水和剤 (ハーモニ-DF) [DPX-16顆粒水和] (H24-p290)	チフェンシプロキサール 75.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 とうもろこし3~4葉期 (雑草生育期)	2g								1	1. 砂土では使用しない。 2. ギンギン類に効果がある。茎葉処理剤のためギンギン類の葉が展開してから行う。 3. 有機リン系殺虫剤との混用および7日以内の近接散布は、葉害を生じる恐れがあるので避ける。 4. 本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内に薬液が残らないよう使用後できるだけ早く専用の洗浄剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないように注意する。 5. 葉害が生ずるおそれがあるので、必ず所定量及び使用時期を守り、均一に散布する。	
16	ファールスターP乳剤 [BAS-656] (H25-p197)	ジメタナトP 64.0%	全面土壌散布 は種後~とうもろこし2葉期(イ ネ科雑草2葉期まで)	75~120ml								1	1. 砂土では使用しない。	
17	フルーゾプロフル [SL-573] (H27:H29-p189)	トリピラート 10.4%	雑草茎葉散布又は全面散布 とうもろこし3~5葉期 (但し、収穫45日前まで) (雑草生育期)	40~50ml								1	1. 散布時の展開葉に葉害(黄斑)を生じる場合があるが、その後の生育、収量には影響が無い。	
18	ホクサー [SYJ-100] (H26-p272)	フロルホホル7 78.4%	雑草茎葉散布又は全面散布 とうもろこし6~7葉期 (但し、収穫45日前まで)	50~75ml								1	1. 雑草発生が多いほ場では、初期生育での懸念されるため、土壌処理などの併用が望ましい。	
19	モーテロ乳剤 [BAH-0805] (H24-p292,294,296)	ジメタナトP 19.7% ベンデイタリン 23.1%	全面土壌散布 は種後~とうもろこし2葉期、イ ネ科雑草2葉期まで	200~400ml								1	1. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、時期を失しないように散布する。 2. 堆肥を多く施した圃場では、低薬量でイネ科雑草に効果がある場合があるので、広葉雑草優占圃場で使用する。こと。 3. 後作物として(ほちやちや等の)うり科、ほうれんそうやそばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 使用量	主な対象雑草						毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂	
					シ ロ ザ	タ デ 類	ハ コ ベ	ツ ク サ	ギ シ ギ シ 類	イ チ ビ					一 年 生 イ ネ 科
20	ラファ-乳剤 [AL-513乳剤] (H22-p254)	アフラロール 30% リニロン 12%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	400~600ml	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土では使用しない。		
21	ラファ-乳剤 [アフラ-ル] (S58-p263) (H20)	アフラロール 43%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 雑草茎葉散布又は全面土壌 散布 とうもろこし1~2葉期、イネ科 雑草2葉期まで	200~400ml 200~400ml	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 土壌が乾いていると効果が劣る。		
22	トフミットアワフル [NP-66H] (R3-183)	(ヒロキサスルホン 3.4% ・リニロン 24%)	全面土壌処理 は種後出芽前 (雑草発生前)	250~350ml 散布水量 100L	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 稲、大麦、ソルガムに薬害を生じるおそれがあるので、散布した当年または翌年の栽培を避ける。 2. マルチ栽培、トンネル栽培等での使用は薬害を生じるおそれがあるので避ける。		
23	ラファットアワ マックスロート [NC-622液] (H20-p309)	グリホサートカリウム塩 48%	雑草茎葉散布 不耕起、は種後出芽前 (雑草生育期) 散布水量50L	200~400ml	○	○	○	○	○	○	○	2	1. とうもろこし出芽後の使用は枯死するので避ける。 2. 専用ノズルを使用する。 3. 泥炭土での使用は避ける。		
24	ロウカス(水和剤) [リニロン] (S41)	リニロン 50%	全面土壌散布 は種直後	150~200g	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨の続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前か発生前初期に散布する。		
25	ラホ-ブ乳剤 [SL-950] (H4-H7-p130)	ニコスルフロン 4.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 とうもろこし3~5葉期 (収穫30日前まで)	100~150ml	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 散布数日後一時的に褪色及び生育抑制を生ずることがある。 2. 品種によって薬害が生じる恐れがあるので注意する。 3. 本剤は、微量の成分で作物に影響を与えがあるので、散布機械器具は家庭用洗剤等による十分な洗浄を行う。 4. 有機りん系殺虫剤との混用及び7日以内の近接散布は薬害を生ずることがあるので避ける。 5. シバムギ、レットトップに効果がある。		
26	ラホ-ブエースOD [SL-574] (H29+H31-157) (H30+H31-159)	(トリピラレート 3.1% ・ニコスルフロン 3.1%)	雑草茎葉散布又は全面散布 とうもろこし3~5葉期 (収穫45日前まで)	100~200ml	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 天候により黄化・黄斑が見られる場合あり。 2. 品種によって薬害が生じる恐れがあるので注意する。 3. 本剤は、微量の成分で作物に影響を与えがあるので、散布機械器具は家庭用洗剤等による十分な洗浄を行う。 4. 有機りん系殺虫剤との混用及び7日以内の近接散布は薬害を生ずることがあるので避ける。 5. シバムギ、リードカナリア-グラスに効果がある。 6. コスズメノチャヒキには効果が劣る。		
27	ハズ液剤 [Hoe-866] [R6.R7-134]	グリホサート 18.5%	茎葉処理(畦間) とうもろこし生育期-雑草生育 期(草丈30cm以下) (収穫7日前まで)	300~500ml	○	○	○	○	○	○	○	3	1. 茎葉処理は作物にかからないことを前提とした方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布す ることが必要である。 2. 非選択剤の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に薬害を生じる。		新



番 号	商 品 名 【試験番号】 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期 10a当たり使用量	主な対象雑草						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				ギンギン類 実生	イネ科 実生	イネ科 実生	広葉 実生	フキ	ワラビ				

ウ. 草地(経年)

1	アゼラゾ液剤 【アゼラゾ液剤】 (S57-p190)	アゼラゾ 37.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・春処理 ・ギンギン類の栄養成長期(採草14日前まで) ・5月上旬～下旬 200～300ml	○							1	1. 当該雑草に黄化・生育抑制がみられるので注意する。 2. 高温時又は降雨前の散布は避ける。 3. 重複散布は避ける。 4. 採草・放牧直後の散布は避ける。散布後14日間は放牧・採草は行わない。 5. 局所処理は50～80倍液を1株あたり約25ml。 6. 局所散布した周辺の牧草は飼料にしない。 1. 当年はギンギン類の黄化のみで翌年春に枯死する。 2. 北海道での秋期散布は、最終採草後に行う。 3. 散布後14日間は放牧を行わない。	
2	ハーモニー75DF水和剤 ハーモニ-DF 【DPX-16顆粒水和剤】 (H9-p120)	チフェンサルフロキサメチル 75.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・秋処理 ・ギンギン類の栄養成長期(但し、最終採草後) ・10月上旬～中旬 300～400ml	○							1	1. イネ科草種経年草地及びアルファルファとの混播草地。 2. クローバーに対する葉害が著しい。 3. 夏処理についてはイネ科牧草についても生育抑制がみられることがあるが、夏期高温時の葉害の程度はアゼラゾ剤に比べて少ない。 4. 本剤散布後21日間は採草及び放牧を行わない。 5. 散布液の飛散や流出によって有用植物に葉害が生ずることのないよう十分注意して散布すること。 6. 本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内に薬液が残らないよう使用後できるだけ早く専用の洗浄剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、葉害の原因にならないように注意する。	
3	ハンバル-D液剤 【MDBA液剤】 (H13-p373) (H13-p269)	MDBA 50.0%	雑草茎葉散布 ・イネ科経年草地のギンギン類に対する秋処理 ・ギンギン類の栄養成長期 ・秋期最終刈り取り後30日以内 75～100ml、水100L	○							1	1. マメ科牧草には葉害を生じるので、イネ科草地で使用。 2. 散布薬剤の飛散、あるいは流出によって、作物に葉害が生じることのないよう十分に注意する。 3. 秋期散布した牧草は使用しないこと。	

エ. 草地更新用地

1	エトアゾ液剤 【AK-01液剤】 (H17-p328) (H17-p333) (H20)	グリホサートイソプロル 7シ塩 41.0%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育盛期 ・耕起の10日以前 ・雑草全般 250～500ml、水50L	○	○	○	○	○	○	○	2	(雑草茎葉散布) 1. 刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。 2. 専用ノズルを使用する。 (は種前処理) 1. 主要雑草が出揃うのを待つて処理する。 2. 砂土・整地は丁寧に、処理後は鎮圧以外の表土攪乱を避ける。 3. 専用ノズルを使用する。 4. 葉量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を守る。 5. 泥炭土での使用は避ける。	
2	グリホエクス液剤 【AK-01液剤】 (H17-p328) (H17-p333) (H20)		・ギンギン類 500～700ml、水50L	○									
3	サンワ-ロン液剤 【AK-01液剤】 (H17-p328) (H17-p333) (H20)		【は種前処理】 ・は種10日前からは種当日まで ・雑草全般 250～500ml、水50L	○	○	○	○	○	○	○			

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期 10a当たり使用量	主な対象雑草					毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
				ギンギ シ類	イネ科	広葉 経年	フ キ	ワ ラビ				
4	カトリオン [WOC-01液剤] (H11-p347)  (H14-p278)	グリホサートイソプロピル アミン塩 41.0%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育盛期 ・更新の10日以前 ・雑草全般 250～500ml、水50L  ・ギンギシ類・シムキ 500～700ml、水50L  ・フキの栄養生長期 ・春処理5月上旬～下旬 ・樹起の10日以前 600～800ml、水50L	○	○	○	○	○	2	刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。 2. 専用ノズルを使用する。  1. フキの葉が大きくなりすぎないうちに処理する。 2. 専用ノズルを使用する。		
5	サンダーネーブル007 [NH-0077077μ] (H19-p373)  (H19-p375)	ピラフルエンチル 0.16% グリホサートイソプロピル アミン塩 30%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育盛期 ・樹起の10日以前 ・雑草全般 400～600ml、水100L  ・ギンギシ類 400～600ml、水100L	○	○	○	○	○	1	1. 刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。 2. 主要雑草が出揃うのを待つて処理する。 3. 碎土・整地は丁寧に、処理後は鎮圧以外の表土攪乱を避ける。 4. 葉量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を守る。 5. 泥炭土での使用は避ける。		
6	カチオンIQ [ZK-122液剤] (H18-p309) (H18-p314)  (H18-p311) (H19-p372) (H18-p312)  (H26-p274)  (H18-p308)	グリホサートイソプロピル塩 44.7%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育盛期 ・樹起の10日以前 ・雑草全般 300ml 水25～100L  ・ギンギシ類 300～500ml 水50～100L  フキ(雑草茎葉散布) ・フキの栄養生長期 ・春処理(5月中・下旬) ・樹起の10日以前 600～750ml、水50～100L  リートカリーグラス(雑草茎葉散布) ・8月中旬の2番草収穫から約20～30日後(リ- トカリーグラス草丈20～50cm) 500～750ml、水50L	○	○	○	○	○	2	1. 刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。 2. 専用ノズルを使用する。  1. フキの葉が大きくなりすぎないうちに処理する。 2. 専用ノズルを使用する。  1. 専用ノズルを使用する。 2. 2番草収穫(最終刈取)後、リートカリーグラスの再生草丈を確認して処理する。 3. リートカリーグラスは発生発生が懸念されるため、「は種前雑草茎葉散布(は種床処理)」と組み合わせることが望ましい(泥炭土を除く)。  1. 主要雑草が出揃うのを待つて処理する。 2. 碎土・整地は丁寧に、処理後は鎮圧以外の表土攪乱を避ける。 3. 専用ノズルを使用する。 4. 葉量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を守る。 5. 泥炭土での使用は避ける。		

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期 10a当たり使用量	主な対象雑草						毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
				ギンギ シ類	イネ科	広葉	フ キ	ワ ラビ	経年				
7	ラコントアワマックスロード 〔NC-622液剤〕 (H18) (H20-p311) (H21-p292)	グリホサートトリウム塩 48.0%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育期 ・耕起の10日以前 200～300ml、水25～50L	○	○	○	○	○	○	3	1. 専用ノズルを使用する。 2.刈取後は前植生の再生を待つて処理する。		
	(H18) (H20-p313) (H21-p290)		雑草茎葉散布 ・キンギン類の生育期 ・耕起の10日以前 300～500ml、水25～50L	○							1. 専用ノズルを使用する。 2. 刈取後は前植生の再生を待つて処理する。		
	(H26-p277) (R3-p87)		リートカリーガラス(雑草茎葉散布) ・8月中旬の2番草収穫後から約20～30日後(リ- トカリーガラス草丈20～50cm) 500～750ml、水50L		○						1. 専用ノズルを使用する。 2. 2番草収穫(最終刈取)後、リートカリーガラスの再生草丈を確認して処理する。 3. リートカリーガラスは実生発生が懸念されるため、「は種前雑草茎葉散布(は種床処理)」と組み合わせることが望ましい。		
	(H21-p294) (R3-p87)		は種前雑草茎葉散布 ・は種床の雑草発生撤期 ・は種10日前からは種当日まで 200～300ml、水50L	○	○	○	○	○	○		1. 専用ノズルを使用する。 2. 泥炭土での使用は避ける(ただし、表土の土砂含量が55%を超える場合にはその限りではない)。		

## 才・草地造成・更新用地

1	アージュン液剤 〔アージュン液剤〕 (S50-p162)	アージュン 37.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・ワラビ 展葉期 1,000ml							1	1. ワラビの栄養成長期の散布は避ける。 2. 降雨前の散布を避け、処理後は放牧・採草を行わない。	
---	------------------------------------	-------------	----------------------------------	--	--	--	--	--	--	---	--	--

**(3) グリホサート系除草剤の使用回数について**

飼料作物に掲載したグリホサートを含む除草剤の使用回数は、農薬登録では以下のとおりなので留意する。  
 なお、使用回数のカウント期間は「1は種(準備作業を含む)から収穫に至るまでの間(複数回収穫される作物では、直前の収穫から次の収穫までの間)」である。  
 草地では、1は種の準備作業は耕起をもって始まると解される。よって、例えば草地更新用地では、耕起前の使用回数は耕起後の使用回数に引き継がれない。

**ア とうもろこし(飼料用)**

商 品 名	本剤の使用回数	グリホサートを含む農薬の 総使用回数	新規 ・改訂
タッチダウンIQ、ラウンドアップマックスロード	2回以内	2回以内	

**イ 草 地**

商 品 名	本剤の使用回数	グリホサートを含む農薬の 総使用回数	新規 ・改訂
サンダーボルト007	1回	3回以内	
エイトアップ液剤、グリホエクス液剤、サン アロン液剤、クサトリキング、タッチダウンIQ	2回以内	(本剤はピラフルフェンエチルを含み、ピラフルフェンエチルを含む農薬の総使用回数は2回以内)	
ラウンドアップマックスロード	3回以内	3回以内	